THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES **KUMAMOTO UNIVERSITY/2003**

熊本大学埋蔵文化財調査室年報 2003年度



THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2003

10

熊本大学埋蔵文化財調査室年報 2003年度

熊本大学は、明治にさかのぼるいくつかの前身の学校を統合再編して設置された経緯からそのキャンパスは熊本市内外の8地区に点在している。そして、これらのキャンパスのすべてが埋蔵文化財包蔵地に指定されている。

一方、本学は、現地再開発を進めてきており、耐用年数を超え老朽化した建物の更新や新築に際して、埋蔵文化財の調査が不可欠である。

本学では、埋蔵文化財を発掘調査し、文化財を保存すると共に、調査の結果を研究に資することを目的とした埋蔵文化財調査室と埋蔵文化財調査委員会を設置し、年度ごとに鋭意調査研究を展開してきた。本年報は、平成15年度内に実施された調査研究の成果を取りまとめたものである。

本年度実施した発掘調査は、黒髪南地区で実施された熊本大学(黒髪)総合研究棟共同 構設置に伴うもの、本荘北地区で実施された基幹・環境整備に伴うもの、及び発生医学研 究センター建設に先立ち実施された旧動物舎取壊に伴うもの、の3件が主なものであり、 今後の考古学研究にも貴重な資料となりうる数々の成果が得られた。

調査研究の成果は本報告に詳述されているが、本荘北地区においては、古代の住居跡や遺構面が深い西側で削平を免れた古墳時代や弥生時代の溝を検出している。また、黒髪南地区においては、学内において初めて縄文時代の遺物が範囲や量においてまとまって出土している。すなわち一定の範囲に黒曜石の破片が散布しており、下位からは縄文時代早期の押型文を主とする各種の土器や石器、総数760点が出土するなど数々の貴重な調査結果が得られている。

本調査は熊本大学のキャンパスのすべてが埋蔵文化財包蔵地に指定されているが故に義務付けられたものではあるが、埋蔵文化財調査室及び同調査委員会は学術的な立場から真摯に調査研究を展開し、考古学上高く評価され得る成果を収めた。埋蔵文化財調査室長、甲元眞之文学部教授及び同調査委員会委員長、北野隆工学部教授をはじめ調査に当たられた教職員、大学院生、協力者各位のご努力に深く敬服し感謝すると共に、本調査結果が今後の考古学研究に十分活用されることを期待する。

2004年 3 月 熊本大学

学 長 﨑 元 達 郎

例言

- 1. 本書は熊本大学構内において,2003年4月1日から2004年3 月31日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化 財調査室の活動内容に関する年次報告書である.
- 2. 構内遺跡の調査は、昨年度に引き続き、年次と調査順を表す 調査番号で表すこととし、出土遺物や記録類もこの番号で整 理・管理している。
- 3. 遺跡略号は、地区ごとにローマ字3文字で以下のように表記した. 黒髪町遺跡黒髪南地区 (KKS), 同北地区 (KKN), 本 庄遺跡医学部構内 (HJM), 同病院構内 (HJH), 同医療技術短期大学部構内 (KHJ), 京町台遺跡教育学部附属小中学校構内 (KMS), 大江遺跡群薬学部構内 (HJP).
- 4. 遺物への注記は、遺跡略号+調査番号+出土遺構(位置)の順で行った。
- 5. 本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査室にて保管している.
- 6. 本書で使用した遺構実測図は、小畑弘己・大坪志子をはじめ とする調査参加者が、遺物実測は小畑・大坪、製図は小畑・大 坪・坂元紀乃が行った。
- 7. なお、遺構実測には手書きによる記録とともに遺跡調査汎用システム (カタタ Ver. 3-アーケオテクノ社) を使用した.
- 8. 本書の執筆は、表1・2、付篇および抄録を坂元が、Ⅱ-1
 章を大坪が、Ⅱ-3章を小畑が、Ⅰ章・Ⅱ-2章・Ⅲ章・英文
 サマリーを大坪が、ハングル文については小畑が行った。
- 9. 本書の編集は大坪が行った.

目 次

<本文目次>		5.	黒髪団地南地区事務局配水管修理工事に伴う
第 I 章 本年度の調査概要			立会調査 (0303) 33
第Ⅱ章 発掘調査		6.	黒髪団地南地区理学部 4 号館周辺プレハブ等
Ⅱ-1 0304調査地点			設置工事に伴う立会調査 (0316) 32
1. 遺跡の立地と周辺地形		Ⅲ — 3	本荘北地区 ————— 32
2. 調査の概要		1.	本荘団地北地区中央診療棟(軸)設営工事に
3. 調査の結果			伴う立会調査 (0311) 32
a 基本層序 ——————		2.	本荘団地北地区東側駐車場整備工事に伴う立
b 検出遺構と遺物			会調査 (0315)
4. 成果と問題点		3.	本荘団地北地区楷樹の木移植に伴う立会調査
Ⅱ - 2 0302調査地点	13		(0317) 32
1. 遺跡の立地と周辺地形		Ⅲ - 4	本荘南地区 ————————————————————————————————————
2. 調査の概要		1.	本荘団地南地区凍結保存棟新設に伴う配管移
3. 調査の結果			設工事(うち動物慰霊塔建設)に伴う立会調
a 基本層序 —————			査 (0309)———————————————————————————————————
b 検出遺構と遺物	 13	2.	本荘団地南地区発生医学研究センター整備事
4. 成果と問題点	 19		業配管工事に伴う立会調査 (0310) 33
Ⅱ - 3 0314調査地点	23	3.	本荘団地南地区発生医学研究センター整備事
1. 遺跡の立地と周辺地形	23		業本体工事に伴う試掘調査 33
2. 調査の概要	23	Ⅲ − 5	京町地区 ———————————————————————34
3. 調査の結果		1.	京町地区附属小・中学校フェンス設置工事に
a 基本層序 ————————————————————————————————————	23		伴う立会調査 (0305) 34
b 検出遺構と遺物	23	Ⅲ - 6	九品寺地区 ————————————————————————————————————
4. 成果と問題点		1.	九品寺地区医療技術短期大学部北側駐車場環
第Ⅲ章 立会・試掘調査			境整備工事に伴う立会調査 (0306) 36
Ⅲ-1 黒髪北地区 ————————————————————————————————————		Ⅲ − 7	薬学部地区 ———— 36
1. 黒髪団地北地区教室新築に伴う試掘調	查—27	1.	薬学部地区大江総合研究棟給排水管および電
2. 黒髪団地北地区教室新築に伴う立会調			気工事に伴う立会調査 (0307) 36
(0313)	27	2.	薬学部地区薬学部記念館(仮称)建設に伴う
Ⅲ-2 黒髪南地区 ————————————————————————————————————	30		試掘調査 37
1. 黒髪団地南地区工学部薬品庫新設に伴	う立会	3.	薬学部地区薬草園取設工事に伴う立会調査
調査 (0301)	30		(0312) ————————————————————————————————————
2. 黒髮団地南地区総合研究棟共同溝設備	工事に	Ⅲ − 8	宇留毛地区 —————————— 38
伴う試掘調査 (0302)――――	30	1.	宇留毛地区小碩宿舎1号棟揚水管漏水修理工
3. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備	工事に		事に伴う立会調査 (0308) 38
伴う立会調査 (0302)	30	跋文 ——	39
4. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備	工事に	Summary-	40
伴う立会調査(ガス管)(0302) ―――	31	付篇1 —	41

付篇:	2 —————————————————————————————————————	写真 2	3 号住居址(南より)	— 11
報告	書抄録45	写真3	15号溝全景 (南より)	11
		写真 4	51号溝遺物出土状況 (北より)――――	11
<図片	版目次>	写真 5	51号溝遺物出土状況 (北西より)―――	11
図 1	黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図	写真 6	51号溝遺物出土状況(北西より)	— 11
	(1/25000) 2	写真 7	0304調査地点出土遺物(1/4)———	
図 2	本荘北地区における調査地点配置図(1/2000)	写真8	I 区全景(南より)	21
	6	写真9	遺物出土状況 (西より)	21
図 3	0304調査地点遺構配置実測図・調査区西壁土層断	写真10	遺物出土状況 (南より)	
	面実測図・15号溝敷石断面図・15号溝土層断面実	写真11	縄文土器出土状況(北より)――――	21
	測図(1/200・1/50・1/25)	写真12	石器出土状況(南より)	21
図 4	51号溝遺物出土状況 (1/50)——— 8	写真13	Ⅱ区全景 (北より)	21
図 5	0304調査地点出土遺物 1 (1/4) 9	写真14	Ⅱ区見通し (南より)	— 22
図 6	0304調査地点出土遺物 2 (1/4) 10	写真15	Ⅱ区西壁土層①(東より)―――――	— 22
図 7	基本土層柱状図 ————————————————————————————————————	写真16	Ⅱ 区西壁土層②(東より)	22
図 8	黒髪南地区における調査地点配置図(1/2000)	写真17	遺物出土状況 (南より)	22
	14	写真18	0302調査地点I区出土遺物 ————	—— 22
図 9	0204・0302調査地点配置図・0302調査地点遺構配	写真19	I 区全景 (西より)	24
	置実測図(1/400·1/250)————————————————————————————————————	写真20	Ⅱ区全景 (南より)	24
図10	0302 Ⅰ 区東壁土層断面実測図・0302 Ⅱ 区西壁土層	写真21	Ⅱ区調査風景(南より)――――	 26
	断面実測図(1/100·1/200)———————————————————————————————————	写真22	Ⅱ区5号溝土層堆積状況(東より)――	 26
図11	0302調査地点I区出土遺物実測図(1/3)―― 17	写真23	Ⅱ区5号溝(東より)――――	 26
図12	0302調査地点 I 区出土遺物実測図 2 (1/3) — 18	写真24	Ⅱ区7号溝 (西より)	 26
図13	0302調査地点 I 区出土遺物実測図 3 (1/3)— 19	写真25	試掘地点調査風景(北西より)――――	
図14	0302調査地点Ⅱ区出土遺物実測図(1/3・1/4) 20	写真26	トレンチ1掘削状況(西より)――――	
図15	本荘南地区における調査地点配置図(1/2000)	写真27	土層 (南より)	
	24	写真28	作業風景 (西より)	30
図16	0314調査地点遺構配置実測図(1/450)——— 25	写真29	トレンチ 3 掘削状況 (北より)――――	30
図17	黒髪北地区西半における調査地点配置図	写真30	作業風景 (東より)	30
	(1/2000) — 28	写真31	掘削状況 (西より)	31
図18	黒髪北地区東半における調査地点配置図	写真32	掘削状況 (南より)	31
	(1/2000) 29	写真33	掘削状況 (西より)	31
図19	京町地区における調査地点配置図(1/3000)	写真34	掘削状況 (北より)	32
	35	写真35	掘削風景 (東より)	32
図20	九品寺地区における調査地点配置図(1/2000)	写真36	土層堆積状況 (南より)	32
	35	写真37	作業風景 (北より)	33
図21	薬学部地区における調査地点配置図(1/2000)	写真38	作業風景 (西より)	33
	37	写真39	土層堆積状況 (東より)	— 33
		写真40	作業風景 (東より)	34
	[目次>	写真41	トレンチ2西壁 (東より)	34
写真]	西側調査区全景 (北より)11	写直42	調査地点近景 (東より)	34

写真4	3 掘削状況 (南より)	34
写真4	4 駐車場トレンチ3作業風景(南より)―――	36
写真45	5 トレンチ3南壁土層(北より)――――	36
写真46	3 トレンチ1南壁(北より)――――	36
写真47	7 研究棟敷地深掘部 (南西より)	36
写真48	8 作業風景 (北より)	37
写真49) トレンチ 2 掘削状況 (西より)	37
写真50) 作業風景 (北より)	38
写真51	掘削状況 (東より)	38
写真52	た 作業風景 (北西より)	38
写真53	8 掘削状況 (南西より)	38
<表目	次>	
表 1	熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧(アミ	部
	分は本年度調査した地区を示す)――――	1
表 2	2003年度調査一覧 ———————	3

第 | 章 本年度の調査概要

本年度は表2のとおり,発掘調査3件,立会調査25件, 試掘調査3件を実施した.

本年度実施した発掘調査は、黒髪南地区で実施された総合研究棟共同溝に伴う発掘調査(0302調査地点)と本 荘北地区で実施された基幹・環境整備に伴う発掘調査 (0304調査地点)、発生医学研究センター建設に先立ち実 施された本荘中地区のB·E·RI·旧動物舎取壊に伴う発 掘調査(0314)である。

本荘北地区基幹・環境整備に伴う0304調査地点は、本 荘北地区で行なった西側と東側の調査地点の中間にあた る. 西側で実施された9901・0006・0104・0119の各調査 地点の結果から、周辺には古墳時代前期から古代にかけ ての集落が広がり、遺構の分布が非常に密であることや、 遺物包含層・遺構面は東側ほど浅くなることが判明して いた.中央東寄りの0101地点でもいくつかの住居址の検 出を見たが、遺構面が浅く、また遺構の分布の様子も若 干異なっていた.このため、今回調査を実施した0304調 査地点は、東へ向かって遺構分布の様子がどのように変 化するのかを把握する上で重要な地点と考えられた.

調査の結果,0304調査地点は予想どおり遺構面が浅く

削平を受け、また調査区に隣接している焼却炉用の煙突 を建てた際に周囲が大きく掘削されており、調査区の大 半は破壊され、給・排水管等の敷設も多く、遺構のダ メージは大きかった.しかし、遺構面が深い西側では、 削平を免れた古墳時代や弥生時代の溝を検出することが できた. 今回検出した弥生時代の溝は、隣接する0104調 査地点で確認された弥生時代の溝(125号溝)の続きで ある.この溝は古墳時代の溝との交差部分で確認したが, 埋土が地山の土に類似しており、平面での検出には他の 時代の遺構以上の注意が必要であった. また, 調査区東 側では大型の柱穴が検出されたが、0119調査地点で検出 された古墳時代の大型建物の柱穴列に類似しており、同 じ時期のものと考えられる. 本調査区は大学病院構内に おいて最も北より(白川より)の地点にあたるが、遺構 はさらに北へ広がること, 古墳時代や古代の遺構は密度 を減じながらも東へ広がることが確認できた. また, 今 後は弥生時代の遺構の検出に格段の注意を払う必要があ ることを認識した.

黒髪南地区における基幹・環境整備(共同溝設置)に伴う調査(0302)は、黒髪南地区中央やや西よりに大型

表 1 熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧(アミ部分は本年度調査した地区を示す)

No.	地区名(学部名)	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区 (法・文・教・大教センター) 黒髪北地区 (教育学部附属養護学校)	熊本市黒髪2丁目40-1 熊本市黒髪5丁目17-1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安	
2	黒髪南地区 (工·理)	熊本市黒髪 2 丁目39-1	黒髮町遺跡	集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安	
3	京町地区(教育学部附属小・中学校)	熊本市京町本丁5-12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区(教育学部附属幼稚園)	熊本市城東5-9	熊本城址	城館址・熊本城 関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市新南部居屋敷240-1	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	理学部臨海実験所	天草郡松島町大字会津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995 年度の調査 によって貝塚でな いことが判明
7	本荘南地区(医)	熊本市本荘2丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 中世	
8	本莊北地区 (医学部附属病院)	熊本市本荘1丁目1-1	本庄遺跡 (熊大病院敷 地遺跡)	散布地·集落址· 墓地	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・近代	
9	九品寺地区 (医療技術短期大学部)	熊本市九品寺 4 丁目24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・ 奈良・平安・ 中世	周辺遺跡
10	薬学部 (薬)	熊本市大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	大江地区	熊本市渡鹿4丁目1-1	大江遺跡	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区 (職員宿舎)	熊本市黒髪7丁目	宇留毛神社 周辺遺跡群	散布地	弥生·奈良· 平安	

図1 黒髪町遺跡・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図(1/25000)



表 2 2003年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の 種類	調査面積	時代	遺構・遺物
03 · 4 · 10	0301	黒髪団地南地区工学部薬品庫 新設工事	立会調査	2 m²		遺構・遺物なし
03 · 4 · 10	0302	黒髪団地南地区総合研究棟共 同溝設備工事	試掘調査	9.6 m²		土師器
03 · 5 · 20	0303	黒髪団地南地区事務局排水管 修理工事	立会調査	16.8m²		遺構・遺物なし
$03 \cdot 6 \cdot 2 \sim 03 \cdot 7 \cdot 2$	0304	本荘団地北地区基幹・環境整 備工事	発掘調査	333.5 m²	縄文・古墳 弥生・古代	住居址・溝・縄文石器 弥生土器・土師器・近代磁器
03 · 7 · 18	0302	黑髮団地南地区総合研究棟共 同溝設備工事	立会調査	296m²		遺構・遺物なし
03 · 8 · 19	0305	京町地区附属小・中学校フェ ンス設置工事	立会調査	44.3m²		遺構・遺物なし
03 · 8 · 6 ~ 03 · 9 · 12	0302	黒髪団地南地区総合研究棟共 同溝設備工事(I区)	発掘調査	168.2 m²		
$03 \cdot 9 \cdot 4 \sim 03 \cdot 9 \cdot 8$	0306	本荘団地南地区医療技術短期 大学部北側駐車場環境整備工 事	立会調査	539.2m²		遺構・遺物なし
03 • 9 • 5	0307	薬学部地区大江総合研究棟給 排水管および電気工事	立会調査	7.54m²		遺構・遺物なし
03 • 9 • 29	0308	宇留毛団地小磧宿舎1棟揚水 管漏水修理工事	立会調査	3.64 m²		遺構・遺物なし
03 · 10 · 2	0309	本荘団地中地区動物慰霊碑新 設工事	立会調査	4.02m²		遺構・遺物なし
$03 \cdot 10 \cdot 1 \sim 03 \cdot 10 \cdot 10$	0302	黒髮団地南地区総合研究棟共 同溝設備工事(Ⅱ区)	発掘調査	253.5 m²	近代・古代	溝・ピット・陶磁器 土師器・弥生土器
03 · 10 · 27		黒髪団地北地区教室新築工事	試掘調査	13.75 m²		遺構・遺物なし
03 · 11 · 6		薬学部地区記念館建設工事	試掘調査	$7.4\mathrm{m}^3$	古代	土師器
03 · 11 · 17~ 03 · 11 · 28	0310	本荘団地南地区発生医学研究 センター整備事業配管工事	立会調査	557 m²		遺構・遺物なし
03 · 11 · 26	0302	黒髪南地区総合研究棟共同溝 設備工事 (ガス管)	立会調査	3.6 m²		遺構・遺物なし
03 · 12 · 9		本荘団地中地区発生医学研究 センター整備事業本体工事	試掘調査	26.58m²		
03 · 12 · 10	0311	本荘団地北地区中央診療棟 (軸) 設営工事	立会調査	4 m²		遺構・遺物なし
04 · 1 · 13	0312	薬草園取設工事	立会調査	11.2m²		遺構・遺物なし
04 • 1 • 14	0307	薬学部地区大江総合研究棟給 排水管及び電気工事	立会調査	45.5 m²		遺構・遺物なし
04 · 1 · 15~ 04 · 1 · 19	0313	黒髪団地北地区教室新築工事	立会調査	398.8m²		遺構・遺物なし
04 · 1 · 23~ 04 · 1 · 27	0314	本荘団地中地区医学部 B 棟・ E 棟・RI・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,567 m² (1,000 m²)	古代	溝・ピット・土師器
04 · 1 · 30	0315	本莊団地北地区東側駐車場整 備工事	立会調査	30.7 m²		遺構・遺物なし
04 · 2 · 9 04 · 2 · 16	0316	黒髪団地南地区理学部 4 号館 周辺プレハブ等設置工事	立会調査	83 m²		遺構・遺物なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の 種類	調査面積	時代	遺構・遺物
04 · 2 · 23	0317	本荘団地北地区楷樹の木移植	立会調査	16 m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 4	0318	黒髮団地北地区附属養護学校 門横市道水道修理工事	立会調査	2 m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 5 ~ 04 · 3 · 9	0314	本荘団地中地区医学部 B 棟・ E 棟・RI・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,567 m² (300 m²)	中世・古代	溝・ピット 陶磁器・土師器
04 · 3 · 9	0319	黒髮団地北地区井戸改修工事	立会調査	$2.3\mathrm{m}^{2}$		遺構・遺物なし
04 · 3 · 9	0320	黒髮団地北地区福利施設空調 設備取設工事	立会調査	13.19 m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 10	0321	黒髪団地南地区外灯設備工事	立会調査	$3.4\mathrm{m}^2$		遺構・遺物なし
04 · 3 · 10	0322	黒髮団地南地区総合研究棟外 灯設備工事	立会調査	4 m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 10	0313	黒髮団地北地区教室新築工事	立会調査	10m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 10	0323	黒髮団地北地区教室新築工事 (空調機取設)	立会調査	44 m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 11	0324	本莊団地中地区外灯設備工事	立会調査	4 m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 11	0325	本荘団地南地区外灯設備工事	立会調査	11.2m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 15	0326	黒髪団地北地区外灯設備工事	立会調査	3.54m²	9	縄文土器片
04 · 3 · 16	0327	薬学部地区外灯設備工事	立会調査	11.8 m²		遺構・遺物なし
04 · 3 · 17	0323	黒髪団地北地区教室新築工事 (植栽)	立会調査	8.92 m²	古代	土師器・須恵器片
04 · 3 · 22	0328	京町地区教育学部附属小中学 校街路灯設備工事	立会調査	7 m²		遺構・遺物なし

のトレンチを設定した形となった.

北側のI区では、学内において初めて、縄文時代の遺物が範囲や量においてまとまって出土した。これまで、地山と呼ぶ土に縄文時代の遺物が含まれることは把握していたが、今回二時期に分層できたことは大きな成果であった。一定の範囲に黒曜石の破片が散布しており、下位からは縄文時代早期の押型文を主とする各種の土器や石器が出土した。総数は760点を数える。この縄文時代早~中期の遺物包含層は、調査区の中央付近以北に分布しており、今後、調査地点によって、必要となる掘削深度が異なってくると思われる。

南側のⅡ区では、古代の柱穴群と縄文時代包含層を確認したが、近世の削平によって、調査区南側が破壊されており、さらに現代の削平によって北側も大きく破壊を被っていた。削平された部分の堆積土に中期を中心とする弥生土器や甕棺片などが混じることを考えると、この

地区には弥生の墓地も残存していた可能性がある。白川に沿う段丘崖とその境を巡る溝(堀)が検出されたことは大きな成果であったが、近世以降の削平によって、古代以前の遺構が破壊されている可能性が大きくなったことは、周辺で調査された古代官衙関連と思われる遺構の広がりや弥生時代墓地の範囲を追求できない可能性もでてきたことになり、該期の研究には支障がでることになる。

医学部構内で検出した0314調査地点の遺構群は、建物建設に伴って破壊されていたと考えられていた遺構が基礎掘削部分の破壊を免れて残存していたことを教えてくれ、今後の調査の計画にも再考を促すこととなった。また、この溝を中心とする遺構群は隣接する9511調査地点と連続することが明らかになり、今後はその東側で計画されている発掘調査によって、その広がりと性格がさらに明確になるものと思われる。

第11章 発掘調査

Ⅱ-1 0304調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

本調査地点は、本荘北地区に所在する本庄遺跡内にある。本荘地区は、白川の蛇行が見られなくなり下流域に差し掛かる地点にあり、白川左岸の自然堤防上(標高14m)に立地する。

本荘北地区では校舎や病棟の新営に伴い、比較的規模の大きな調査が行われている。その既往の調査で古墳時代前期から古代にかけての集落が確認され、一昨年には弥生時代前期初頭の溝も検出された。遺構の分布は、白川に近いほど濃密であることが分かっている。

2. 調査の概要

平成14年度末に計画された基幹・環境整備事業である。本荘北地区大学附属病院の設備管理棟北側に、発電機室を建設し、発電機室から共同溝を敷設し既設の共同溝(0104調査地点)に繋げる工事である。

既設の建物を解体・撤去したのち、掘削を行い調査を 実施した.なお、調査区の形状が不定形であるため、以 下説明の便宜上、東側広い部分を東側調査区、東西に伸 びる部分を調査区東西部、南北に伸び若干幅広い部分を 西側調査区とする(図3).

<調査面積>

333.5m²

<調査期間>

2003年6月2日~7月2日

<調査員・参加者>

大坪志子.

伊藤千代子,岡田イツ代,押方富江,河野義勝,黒木重信,黒木タケ子,白石美智子,溜渕俊子,西 信二,林田恵子,早田咲百合,福田久美子,堀川貞子,前田和子,前田宏一郎,前田日出男,松井昭子,松本和徳,水上順子,桃井哲夫,森川征子,森川護,森田登,森みどり.

3. 調査の結果

a 基本層序(図3)

本調査区は、全体的に遺構面である地山直上まで近・ 現代の削平が及んでおり、また、配管工事が周辺で行わ れ遺物包含層もほとんど残っていなかった.調査区東側では削平が顕著で包含層の遺存はなく,西側部分で残っていた.調査区の北縁で観察すると,東端では道路舗装のためのバラス (54cm)下がすぐ地山である.東から1/3ほどの地点では舗装面・バラス (35cm)・埋土 (30cm)の下が地山である.西側M92付近では舗装面・バラス (40cm)・埋土 (70cm)(部分的に遺物包含層)で地山となる.地山は西側に向かって傾斜しており,東側に比べると削平の程度は少ない.

b 検出遺構と遺物

今回の調査で検出した遺構は,古代のものと考えられる竪穴住居址2基,掘立柱建物と思われる柱穴群,古墳時代前期の溝1条,弥生時代の溝1条,近代の溝1条である.

<竪穴住居址>

1号住居址

東側の調査区の中央、やや南西部で検出した、住居址の北西角部分のみで全体の規模などは不明である。住居址の軸は南北から若干西へ振れている、遺物は土師器の細片が数点出土したのみである。

3号住居址

東側調査区の東壁中央付近で検出された.全体の西側 1/3程度を残すのみである.削平され,2~3 cm の深さしか残っていないため、時期を確定できる遺物は検出できなかった。南北は4.8mで、おおよそ5 m四方の竪穴住居址だったと思われる。住居址の軸は、1号住居址同様に西へ少し振れている。9901調査地点で検出された集落の状況では、古墳時代の住居址は一辺が4~7 mと概して大きく、軸の方向はばらばらであるのに対し、古代になると小型化し、また大型のものも含めて住居址の軸はおおよそ南北に揃うということが窺える。このことからすれば、3号住居址、1号住居址は古代の住居址と思われる。

<掘立柱建物址>

西側調査区の中央付近で検出された。わずかに西に触れるが、おおよそ南北に並ぶ柱穴が2列ある。また、一部重なって、東西に並ぶ大型の柱穴が3つ確認できる。 南側大きなものが先で、小さなものが後に掘り込まれている。小さいものは、古代の建物址と考えられる。0119

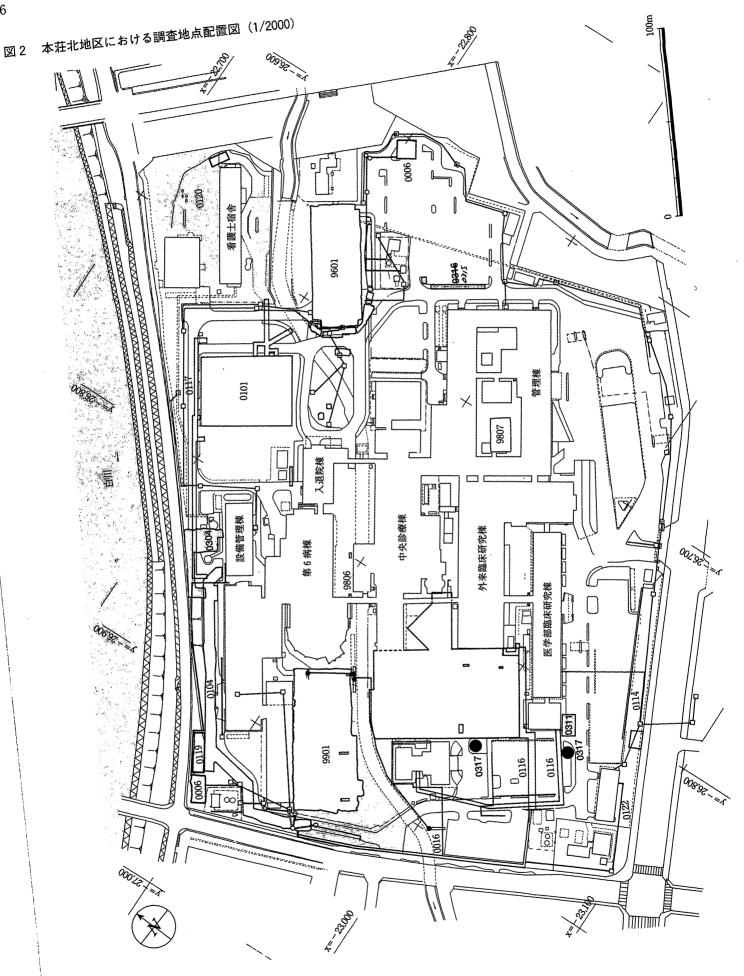


図3 0304調査地点遺構配置実測図・調査区西壁土層断面実測図・15号溝敷石断面図・15号溝土層断面実測図 (1/200・1/50・1/25)

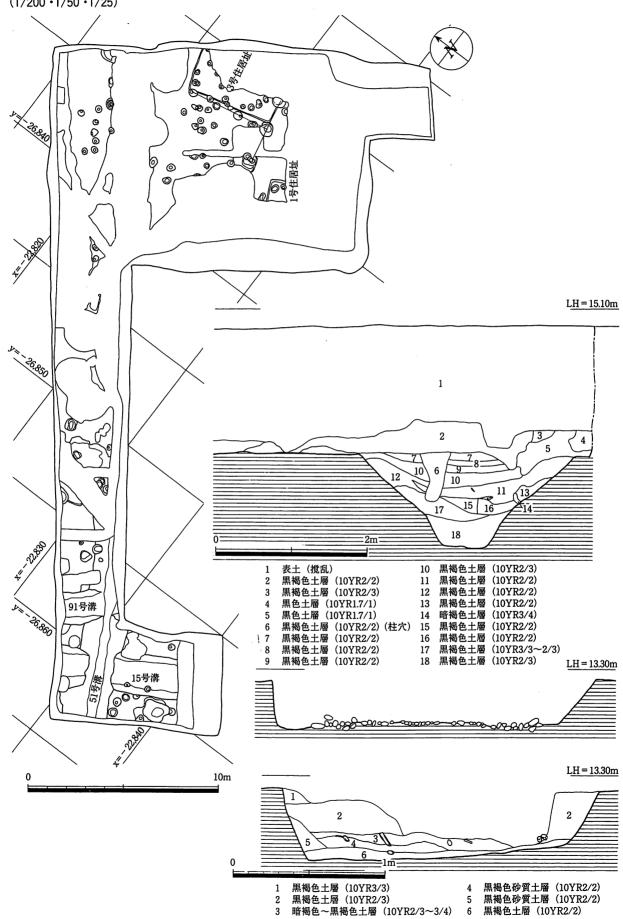
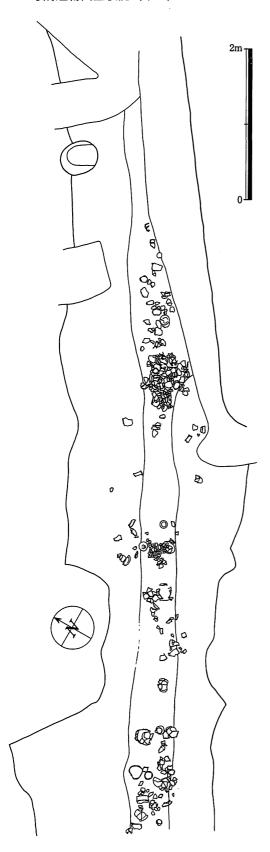


図 4 51号溝遺物出土状況 (1/50)



調査地点では直径が1 mを超える大型の柱穴列が確認され、これは、古墳時代の大型建物の柱穴群であることが判明している。本調査区の柱穴も方向及び規模が0119調

査地点の大型建物とほぼ一致しており,本例も古墳時代 のものと考えられる.

<溝>

15号溝

西側調査区の中央を貫く、北西一東南に走る溝である.現状で幅約2.2m、深さは0.6mである.埋土を除去し遺物包含層の上面レベルで検出した.溝の南端部を深さ0.25mほど掘った所で、3~5 cm の玉砂利が敷き詰められているのが確認された.南端から北方向に2 mほど広がり、それより北は部分的に残っている状態である(写真3).石は大きさや形状を揃え、丁寧に隙間なく敷いている.この敷石の下には、水の作用によると思われる鉱物を含む硬い層が厚さ20cmにわたり堆積している.敷石の間からは近代陶磁の破片がかなり出土し、素焼きの人形なども出土した.掘削後、一定期間使用した後に敷石を敷設したようだが、石が何のために敷かれたのかは不明である.

51号溝 (図4)

西側調査区の西北隅付近から、調査区西南部にかけて 南西—北西に走る溝である。15号溝と直行する。現状で 幅約2.3m、深さは約1mである。底の幅が狭く、断面 は逆台形かV字を呈する。周辺のこれまでの調査と同じ く、この溝からは古墳時代前期の土師器がまとまって出 土した。器種には甕・高坏・小形丸底坩・手捏土器・大 型壷などがあり、特に甕が多い(図5・6:1~6)。

91号溝

15号溝の東側1 mの地点に、15号溝に並行するように 走る.51号溝を検出したレベルでは確認できなかったが、 51号溝の壁が一切り取られたように確認できない部分が あり、その上部を15cm ほど下げたところで確認した. 現状で幅約1.7m、深さ約1 mで、断面は逆台形である. 51号溝との交差部分で、51号の遺物の乱れがないことか ら91号溝が先行する.溝の上部と底から30cm ほどのと ころで、弥生時代の土器が3点出土した.板付I式の壷 形土器と思われる頸部~肩部の破片と底部片である(図 6:7)。0104調査地点で検出された125号溝と繋がるよ うである.

<その他の遺構・遺物>

調査区東西部の中央付近で竪穴住居址のような窪み状の遺構があった。埋土は古墳時代よりも古い様相で、弥生時代か縄文時代の竪穴住居址とも考えられるが、大半を撹乱によって失い、遺物もなく、詳細は不明である。

遺物としてはこのほかに、縄文土器や弥生土器の破片 や黒曜石の破片等がある.

図 5 0304調査地点出土遺物 1 (1/4)

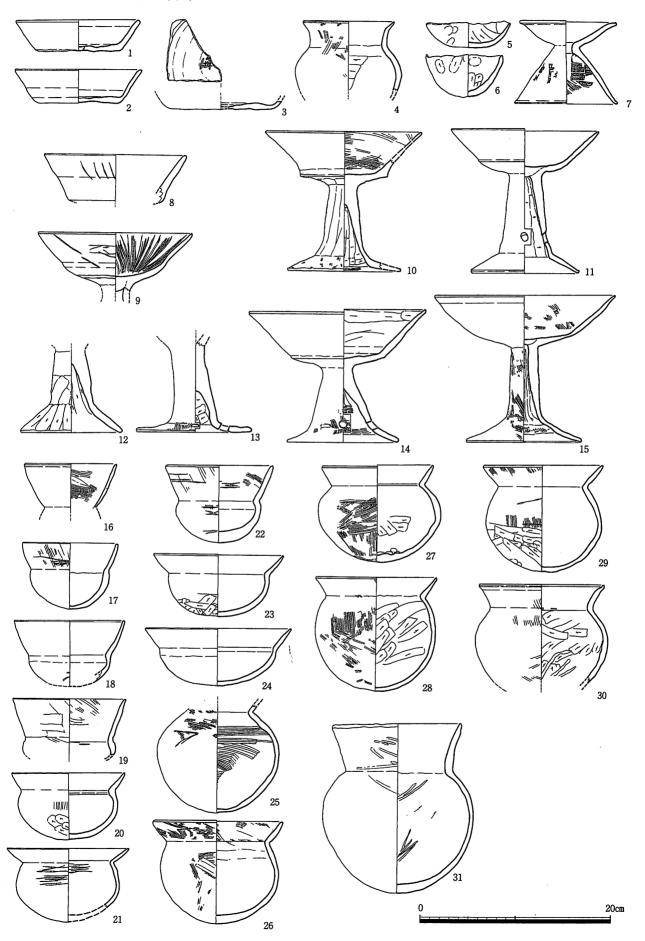
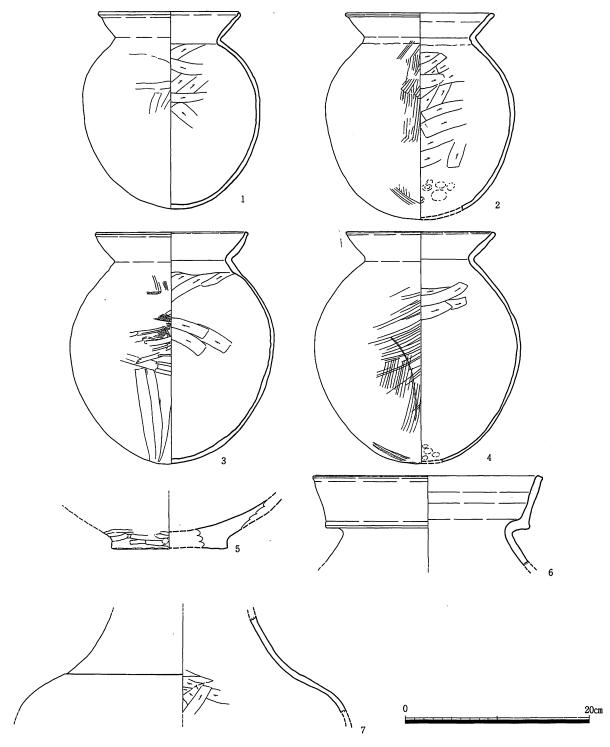


図 6 0304調査地点出土遺物 2 (1/4)



4. 成果と問題点

今回の調査区は、削平・撹乱による遺構面の破壊が多く、当初予想したほどの遺構の検出はなかった。東側調査区では、東側ほど遺構面が浅くなっていることを再確認し、また集落も広がることが判明した。削平を免れた西側調査区では新たな古墳時代の溝を確認し、本荘北地区北側には古墳時代の溝が複雑に巡っていることが明らかになった。また0104調査地点で確認された弥生時代の

溝が北側にさらに延びることが確認できた.今後,弥生時代の遺構の分布がどのようになるのか,注目される.また,周辺の9901調査地点では黒曜石片が多量に出土しており,本調査区でも原石を打ち欠いた破片類が散見できる.今後,これまで遺跡の主体をなしてきた古墳時代から古代の遺構以外にも,弥生時代・縄文時代の遺構や遺物に注意を払う必要があろう.

写真1 西側調査区全景(北より)



写真 4 51号溝遺物出土状況(北より)



写真2 3号住居址(南より)



写真5 51号溝遺物出土状況(北西より)



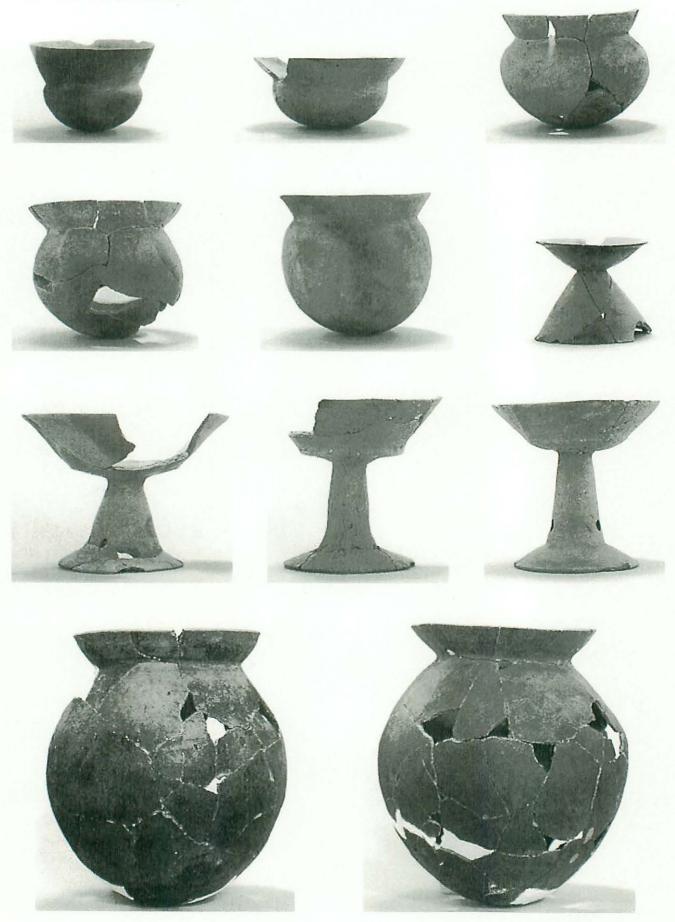
写真3 15号溝全景(南より)



写真6 51号溝遺物出土状況(北西より)



写真7 0304調査地点出土遺物(1/4)



Ⅱ 発掘調査

Ⅱ-2 0302調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

本調査地点は熊本大学黒髪南地区の西側中央に位置し、黒髪遺跡群に含まれる。白川右岸の標高17mの地点にあたる。本調査地点の周辺で実施された既往の調査で、古代官衙関連の遺構と考えられる建物群や、0204調査地点では、本学内に存在が推定されている古代官道の側溝と思われる溝を検出した。9909調査地点(熊本大学埋蔵文化財調査室年報6)や0203調査地点(同9)では遺構検出面が下がり、土層堆積の様相が異なることが分かっていた。今回の調査区のうち、II調査区は古代の遺構群と白川河川敷との間の様子を把握するに絶好の地点にあたり、古代道路の予想範囲に重なる可能性もあるなど、注目された。

2. 調査の概要

本調査地点は、平成15年度竣工予定の総合研究棟(現在建設中)の南北に、新たに共同溝を敷設する工事である。北側のI区では0203・0210調査地点の調査結果により、遺構の残存状態はほぼ良好であることが予想された。調査区の一次掘削を8月4日から行い、6日より調査を開始した。古代の包含層は良好な状態で遺存していたが、該期の遺構や遺物はほとんど検出されなかった。包含層を除去し、地山を検出する段階で黒曜石の剥片・チップが出るため、調査区に1辺1mのグリッドを設定し、状況に合わせ拡張しながら地山を掘り下げた。その結果、縄文早期を中心とした土器・石器が多量に出土した。

Ⅱ区においては、9月25日に機械により掘削を行い、 遺構検出面まで下げた、10月1日より、作業員を導入し、 遺構掘り、壁面の清掃などを実施し、10月3日に作業を 終了した。しかし、北半分において掘削幅が足りないこ とが判明し、およそ1mほど両側に拡張して再度、10月 7日より10月10日まで、その部分の調査を実施した。

<調査面積>

I⊠ 168.2m²

II 区 253.5㎡

<調査期間>

2003年8月6日~9月12日 2003年10月1日~10月10日

<調査員・参加者>

小畑弘己,大坪志子.

稲本佳子, 岡田イツ代, 黒木重信, 黒木タケ子, 小細

工洋子, 溜渕俊子, 西 信二, 林田惠子, 早田咲百合, 堀川貞子, 前田宏一郎, 松井昭子, 松本和徳, 桃井哲夫.

3. 調査の結果

a 基本層序(図7)

I地区周辺の大略の層序は、表土下1mまで現代埋土、その下に古代の遺物包含層があり、その下部が地山となる、調査区の中央付近で、地山と呼ぶ層(3層)の下に縄文時代の遺物包含層が2枚(4層・5層)が確認された、3層には縄文時代後・晩期の遺物が入ることは既応の調査で知られていたが、今回その下に縄文時代早期の遺物包含層があることが新たに判明した。

Ⅱ区の北半分は褐色土の地山面上に遺物包含層である 黒色土が10cm ほど堆積していたが、その上部は旧運動 場建設のためほとんど削平されていた。また、この遺物 包含層は、南側半分が近世以降に削平を受けており、当 初、古代の遺構面がこの南側部分においても確認される と予想していたが、それに反してすべて削平を受けてい ることが判明した。

土層図(図10)の左半分の最下部の15層からは江戸期と思われる磁器の破片が出土し、44号溝より南側は削平されていることがわかる. 北側調査区の黒色土の下部から黄褐色土上部にかけては、縄文時代後期以降の遺物を含む. 調査区全体に広がる地山面上に堆積した黒色土は、この北側と南側とでは性格が異なる別の堆積物であることが調査終盤になって判明した.

よって、本来的な掘削面(自然の作用の可能性もある)は、調査区南側より下がる可能性があるが、今回は それ以上掘削していない。

b 検出遺構と遺物

I区

<溝>

1号溝

調査区南側1/3あたりを東西に走る幅1m,深さ0.48mの溝である。遺物はない。古代の包含層に掘り込まれており、中世以降のものであろう。

4号溝・5号溝・6号溝

調査区北部を平行に東西方向に走る. 大きさはそれぞれ幅0.4m,深さ0.2m,幅0.66m,深さ0.3m,幅約4m,深さ約0.9mである.6号溝は南側の壁が緩やかに落ちて平坦面を作り,さらに一段落ちる.遺物はほとんどない.

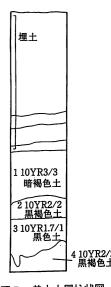


図 7 基本土層柱状図

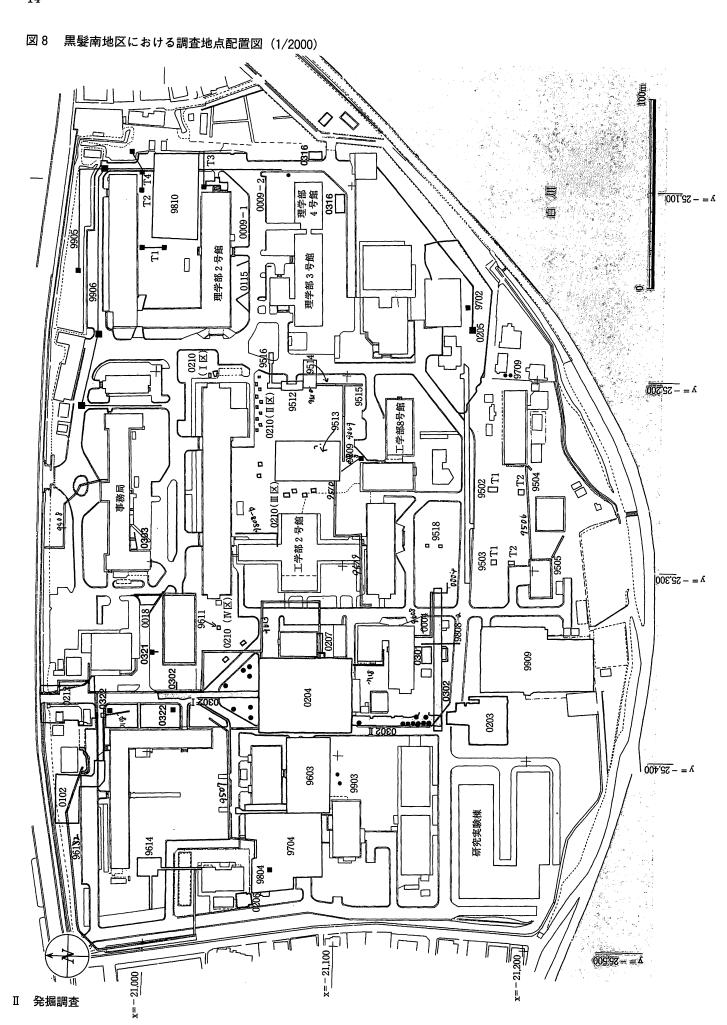


図 9 0204・0302調査地点配置図・0302調査地点遺構配置実測図(1/400・1/250)

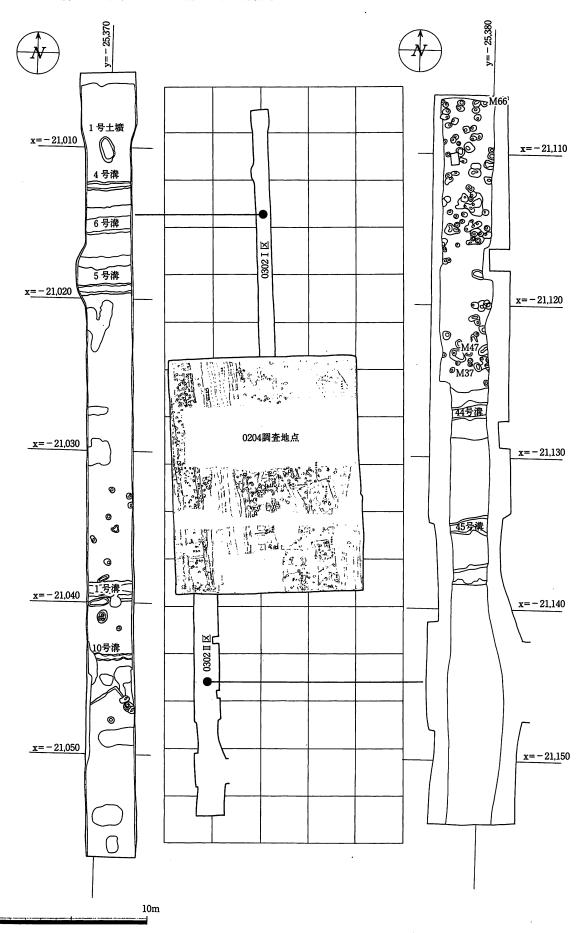


図10 0302 I 区東壁土層断面実測図・0302 II 区西壁土層断面実測図(1/100・1/200)

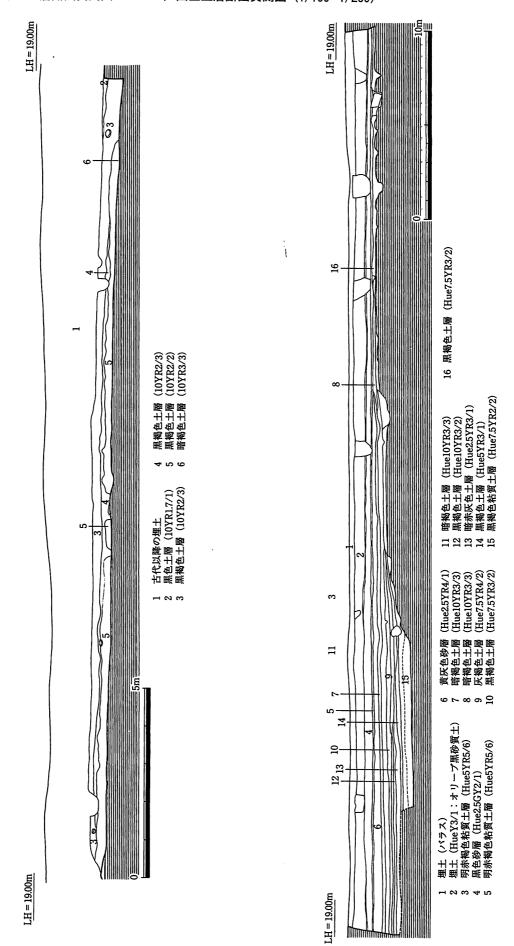


図11 0302調査地点 I 区出土遺物実測図 (1/3)

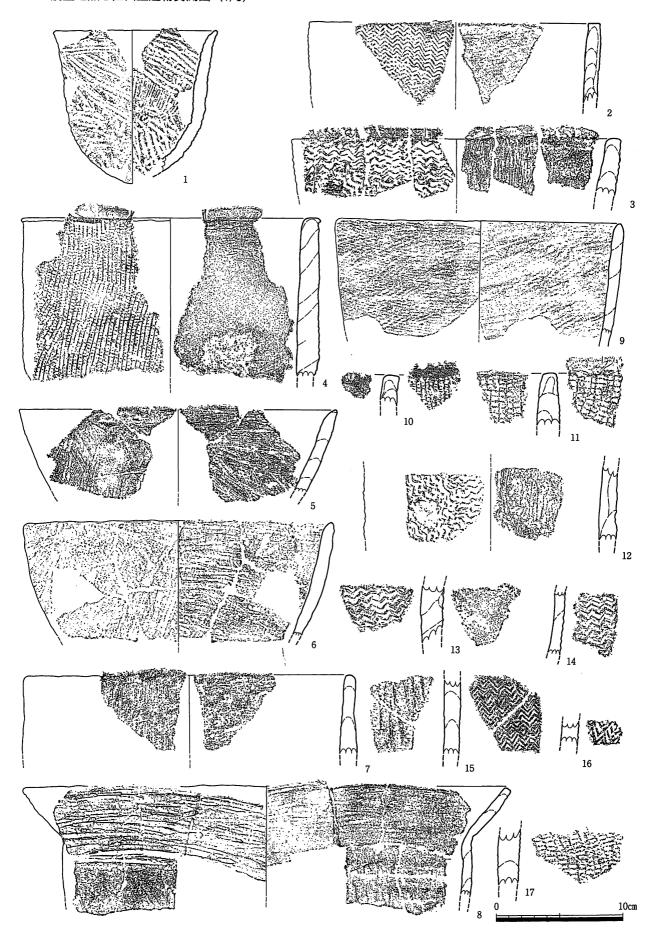


図12 0302調査地点 I 区出土遺物実測図 2 (1/3)

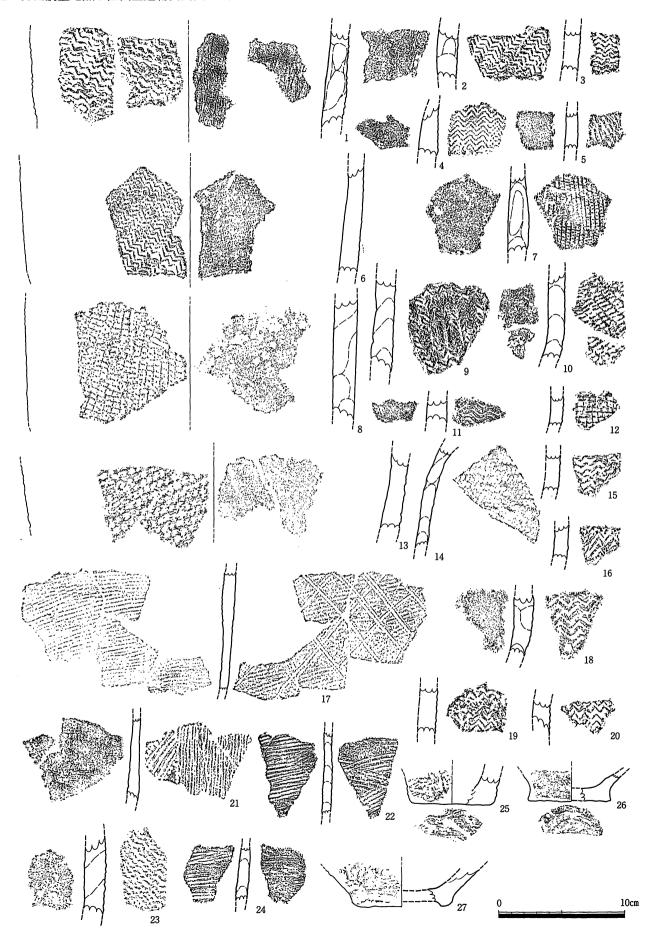
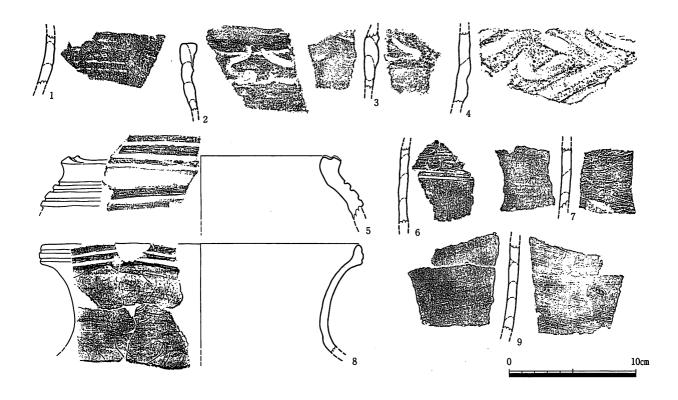


図13 0302調査地点 I 区出土遺物実測図 3 (1/3)



土層の観察より古代の溝と考えた.

<土坑>

2号土坑

調査区北に位置する,長軸約1.6m,幅1mの楕円形である.形状から墓壙とも考えたが,出土遺物がなくその性格は不明である.

<遺物>

今回新たに確認された縄文時代の遺物包含層から縄文 土器と石器が総数760点出土した.調査区中央付近に集 中していた.円筒形山形押型文土器,条痕文尖底鉢形土 器など早期の土器を中心に僅かながら後・晩期までの土 器がある.石器は黒曜石の剥片が最も多く,礫や石匙 (縦型・横型),石鏃などを含む.

I区

<溝>

44号溝

調査区中央をほぼ東西に走る幅3.5m, 深さ50cmほど の溝である.中からは褐色釉を掛けた陶器鉢(図14: 1)が出土した.近世以降のものと思われる.

<ピット>

調査区北半部を中心に多数のピットが検出された.ただし、すべて建物の柱として認定できるものではなく、中には樹根の痕跡も含まれる.ピット38から土師器甕片(図14:5)と弥生土器甕片(図14:5)

須恵器高坏 (図14:3), ピット66から弥生土器甕片 (図14:9) が出土した.

このほか、北半部の黒色土層(16層)中から古代の土師器・須恵器の各種土器および弥生土器、縄文土器を検出した(図14).この他同層下面より鉄鏃が1点出土している.

4. 成果と問題点

これまで、地山と呼ぶ土に縄文時代の遺物が包含されることは知られていた。しかし、今回 I 区で、この地山が少なくとも 3 層に分層できることが確認できた。本学内の調査において縄文時代の遺物がまとまって出土したのは今回が最初である。今後、遺物の精査を行って、各層の時期幅について検討したい。

また、Ⅱ区においては南側段丘の境目とそれを巡る溝 (堀)が検出され、思いのほか削平が著しいことが明ら かになった。

図14 0302調査地点 Ⅱ 区出土遺物実測図 (1/3・1/4)

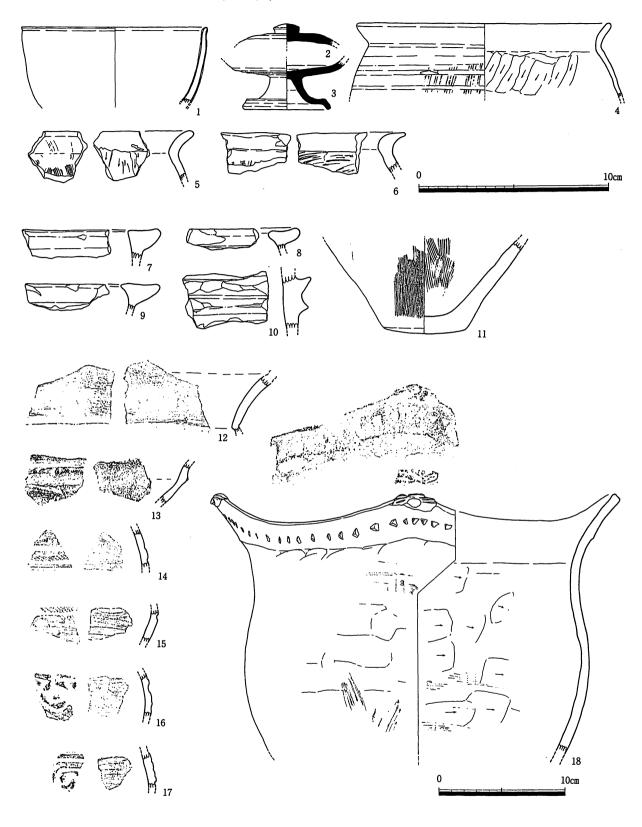


写真8 I区全景(南より)



写真11 縄文土器出土状況(北より)



写真9 遺物出土状況(西より)



写真12 石器出土状況(南より)

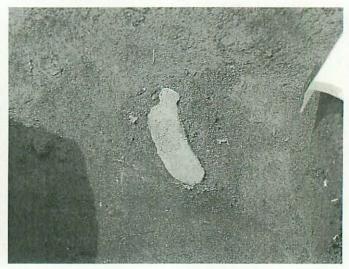


写真10 遺物出土状況(南より)



写真13 I区全景(北より)



写真14 I区見通し(南より)



写真15 I区西壁土層① (東より)



写真17 遺物出土状況(南より)

写真16 II区西壁土層② (東より)

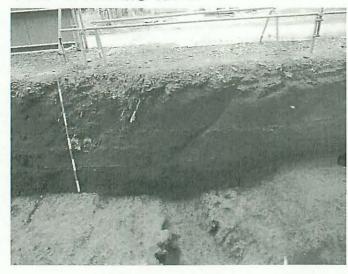
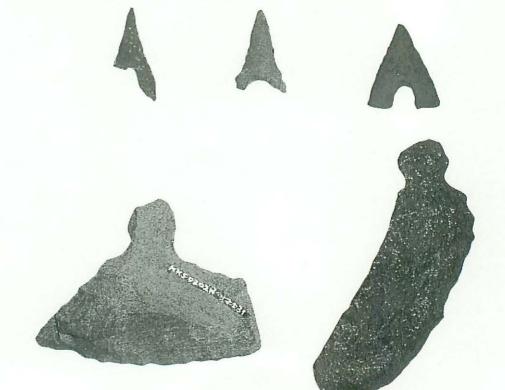


写真18 0302調査地点 I 区出土遺物





Ⅱ-3 0314調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

本地区に所在する本庄遺跡は、熊本市遺跡地図No.8 - 95の熊大病院敷地遺跡として周知されている遺跡である。その南部に展開する医学部構内においては、1995年度に実施したアイソトープ実験棟建設に伴う発掘調査(9511)の結果、8世紀代を中心とする竪穴住居址群と縄文時代後期の遺物包含層が確認され、本医学部構内も遺跡包蔵地に含まれることとなった(熊本大学埋蔵文化財調査室年報2).

また,1998年度に実施した医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター関連図書館解体工事に伴う発掘調査(9801)の結果,7世紀後半~9世紀の竪穴住居,掘立柱建物,溝,9世紀後半の土坑を中心とする遺構群が検出され,本地区において広範に遺構が展開していることが明らかにされた(熊本大学埋蔵文化財調査室年報2).

遺跡一帯は白川左岸の低位の河岸段丘上(標高12~13 m)に位置し、白川の蛇行にともなって、平坦な突出した岬上を呈する地形である。本地区は白川から派生する支流(堀・小河川)が巡る地域にあたり、それらに取り囲まれた部分に古代を中心とした居住区が営まれている。

2. 調査の概要

本調査地点は、2003年度に開始されたPFI事業による発生医学研究センター建設の整備事業の一環として実施された基礎研究棟B棟と基礎研究棟E棟の解体工事に伴う発掘調査である。隣接地で実施した1998年度の医学部エイズ学研究センター建設に伴う図書館の解体工事の際は、基礎撤去後に現場において埋蔵文化財の有無を確認したが、基礎撤去に伴いすでに削平されていた。2のため、今回は建物上物の撤去後、基礎部分において試掘を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとした。12月23日、B棟解体時に、試掘を実施した。この部分は地下室となっていたが、基礎掘削部の間に旧地表面が比較的良好に残存していることを確認することができた。このため、基礎上部の撤去後に機械を入れて確認したところ、一部に遺構が残存していることが判明したため、すぐに発掘調査に切り替え、調査を実施した。

E棟においても、B棟での経験から、遺構が残存する可能性が高いため、施工業者と協議の上、基礎上部撤去後、3月5日に試掘を実施した.この結果、一部において遺構を検出したため、発掘調査に切り替えた. B棟部

分を I 区, E 棟部分を II 区と呼称し, 遺構番号は連続して付した.

<調査面積>

I区 700㎡

II区 300㎡

<調査期間>

2004年1月23日~1月27日 2004年3月5日~3月9日

<調査員・参加者>

小畑弘己.

河野義勝, 白石美智子, 溜渕俊子, 林田恵子, 早田咲 百合, 番山明子, 松井昭子, 森川征子, 森川護.

3. 調査の結果

a 基本層序

I区・II区ともいずれの調査区も地表下2mほど削平されていたが、黄褐色の地山(遺構面)と称する土壌は残存していた。しかし、10cmほど掘り下げるとシルト質が強くなり、灰黄褐色~淡緑灰色のシルト・砂層へと移行する。このため、堆積層の上部がかなり削平されていることがわかる。もっとも深い溝(5号溝)が硬いシルト層を貫き、その底は灰褐色粗砂層まで達していた。

b 検出遺構と遺物

<遺 構>

く溝>

5号溝

Ⅱ区中央部を東西に走る幅2m,深さ0.60mの溝である。断面形は台形状を呈する。16世紀後半の明染付碗や陶器擂鉢の破片が古代の土器片などとともに出土した。方向と位置関係から9511調査地点の北西隅で検出された10号溝に繋がるものと思われる。溝の形状および出土遺物の種類も一致する。

6 号溝

Ⅱ区中央部を東北東から西南西方向に走る幅0.5m,深さ7cmの小溝である。遺物は土師器・須恵器の小片があるのみであるが、9511調査地点の55号溝に連続する。断面形は浅いレンズ状を呈する。8世紀後半代の住居址に切られていることから、時期はそれより遡る可能性がある。

7号溝

Ⅱ 区北側を北東から南西方向に走る断面形逆台形の幅 1.0m, 深さ15cm の溝である. 土師器小片が出土した. 位置関係から9511調査地点の19号溝に連続するものと思

図15 本荘南地区における調査地点配置図 (1/2000)

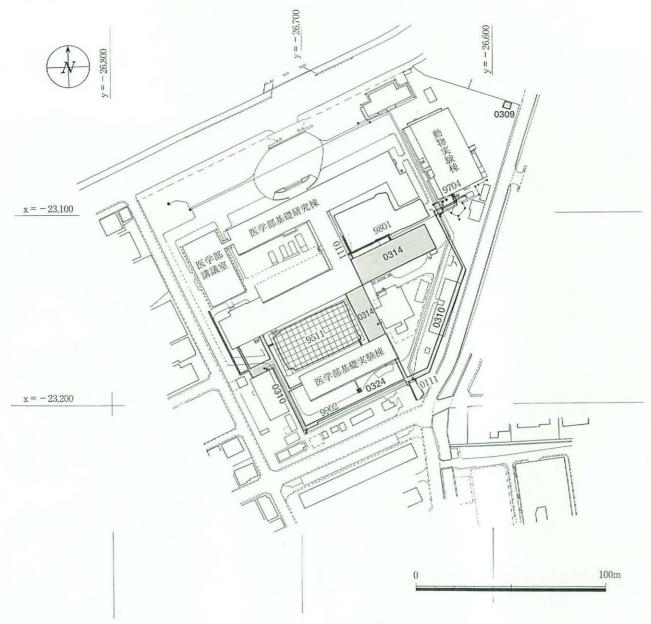


写真19 Ι区全景(西より)



写真20 I区全景(南より)



図16 0314調査地点遺構配置実測図 (1/450)

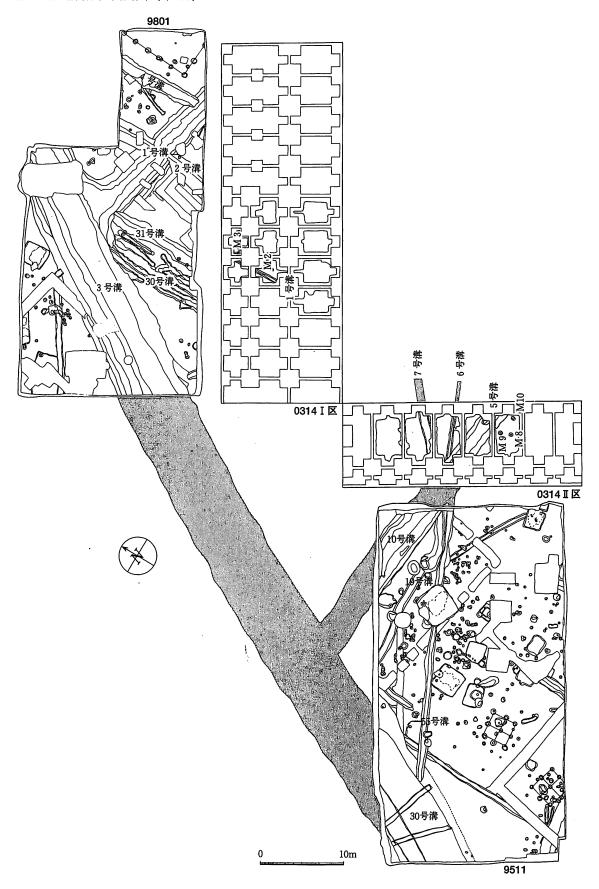
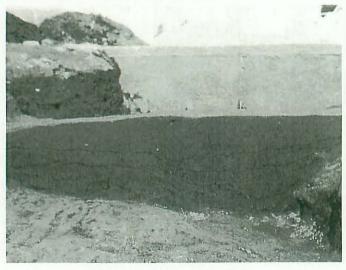


写真21 ||区調査風景(南より)



写真22 | | 区 5 号溝土層堆積状況(東より)



われる。9511地区での切り合い関係から、6号溝より新 しいものと思われる.

1号溝

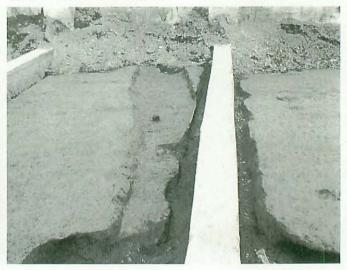
I区中央部西よりの部分で検出した幅0.4m, 深さ5 cm の断面形が浅いレンズ状をなす溝である. 方向は南 北方向に走る. 9801地点の状況からみて同地点の30号~ 32号溝と一連の性格をもつものと思われるが、北側延長 した部分の9801点の調査区内には延長部と思われる部分 は検出されていない. 時期の詳細は不明であるが、覆土 の状況から古代のものと思われる.

このほか、Ⅰ区において2個、Ⅱ区において3個の ピットを検出した. Ⅱ区において検出した3個のピット (M8~M9) は一連の構造物である可能性もある. 遺 物は1点も検出できていないが、覆土は黒褐色であり、 本地点でも古い部類に入り, 古代以前の時期が考えられ る.

Ⅱ区5号溝(東より) 写真23



||区7号溝(西より)



4. 成果と問題点

今回の調査によって, 医学部敷地内の東南側部分にお いても遺構が残っていることが判明した. この地区の調 査に関しては、今後Ⅰ区とⅡ区に挟まれた部分において 新築建物の建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査が予定され ているので, 今後の調査の成果を待って総括することに する.

今回の調査成果は、調査法に関する既存概念の訂正で あろう. つまり, 既存建物部分であっても, 地表下2 m 前後であれば、遺構が削平を一部免れて残存しているこ とが明らかになった点にある. これは、今後、建物新設 のみならず, 既存建物の解体に際して, 基礎を撤去する 際には、必ず埋蔵文化財の有無を確認する必要があるこ とを実証したもので、今後の学内整備の計画の際に留意 すべき点である.

第Ⅲ章 立会・試掘調査

Ⅲ—1 黒髮北地区

(図17·18参照)

1. 黒髪団地北地区教室新築に伴う試掘調査

<調査期間>

2003年10月27日

<調査対象面積>

13.75m

<調査員>

実施者: 坂田和弘 (熊本県文化課).

立会者:小畑弘己·大坪志子.

<調査概要・結果>

法科大学院の設置にむけた,校舎新築工事に伴い熊本 県教育庁文化課坂田和弘氏によって試掘調査が実施され, 調査室調査員が立ち会った.

校舎新築予定地の南西隅に、トレンチを2本T字にな 写真25 試掘地点調査風景(北西より)



写真26 トレンチ1掘削状況(西より)



るように設定し、掘削を行った. 1トレンチでは表土下 1 mまでが近・現代の埋土で、その下に厚さ80cm 程の 遺物包含層が確認された. 包含層にはピット状の遺構が 掘り込まれている. 表土から2.4mで地山を確認した. 2トレンチでも土層の様子は同様であった. こちらの方が 若干浅く、2.2mで地山を確認した. 地山で大小6個のピットを検出した. 遺物としては土師器片が数点出土した.

2. 黒髪団地北地区教室新築に伴う立会調査 (0313)

<調査期間>

2004年1月15~19日

2004年3月10日

<調査対象面積>

398.8m²

10m

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

本体部の基礎工事に伴う掘削で-50cm下げた状態で 土層を観察したが、試掘調査の結果にもあるように、こ の深度ではまだ埋土の状態であった。遺構・遺物とも検 出していない。

また、新築建物と既存建物の間に電気配線を引くため 新築建物の西側と東側に2箇所掘削を伴う工事が実施さ れた. 地表下-70cm を掘削したが、既存建物の基礎用 の掘削に伴う破壊を被っていたことやこの深さまで埋土 であることなどから、遺構・遺物ともに検出できなかっ た.

写真27 土層 (南より)

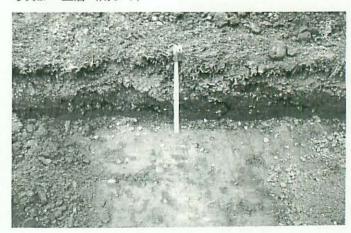


図17 黒髪北地区西半における調査地点配置図 (1/2000)

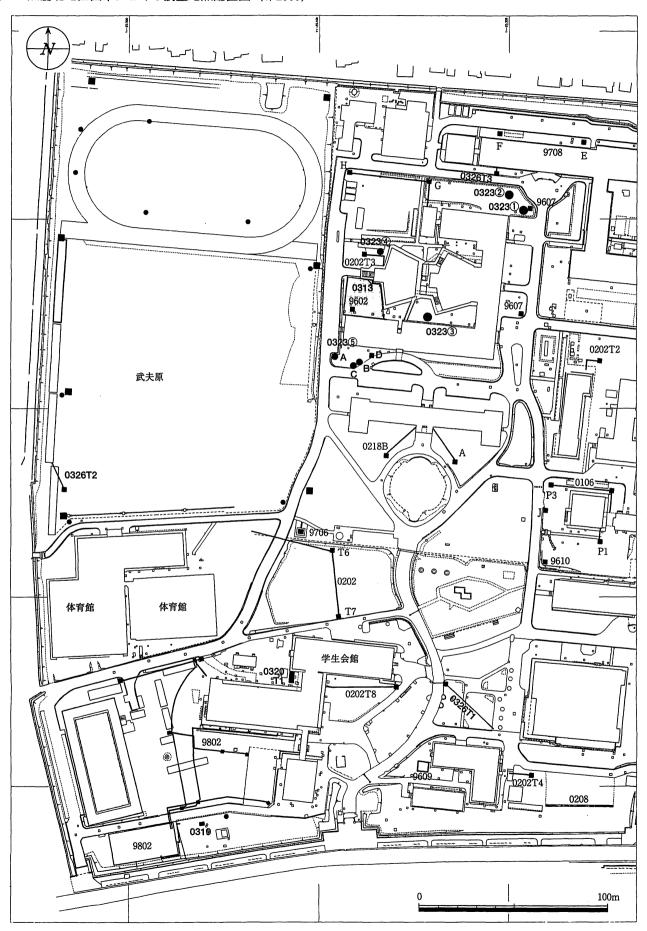
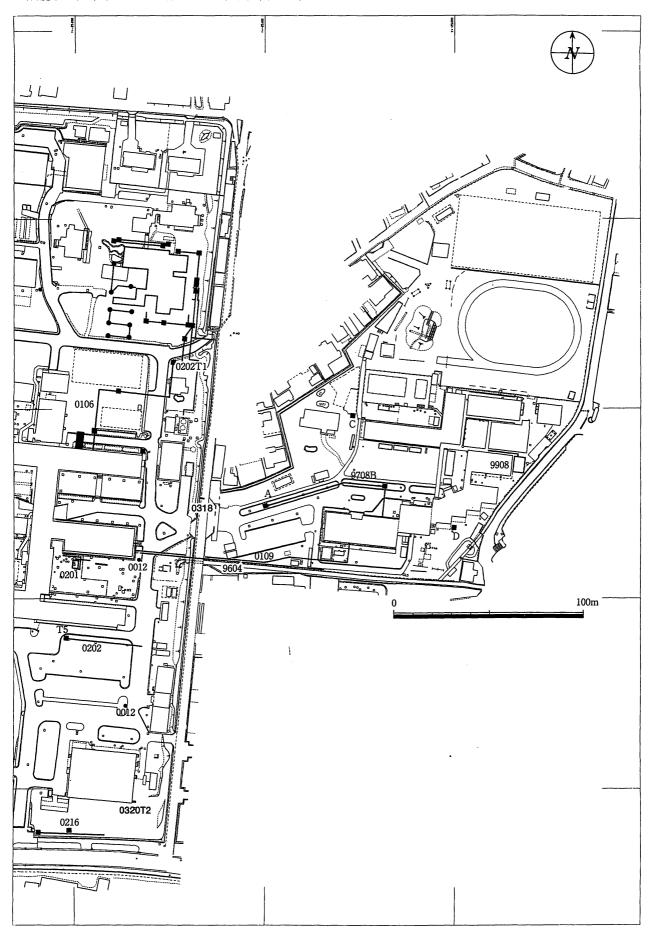


図18 黒髪北地区東半における調査地点配置図 (1/2000)



Ⅲ-2 黒髪南地区

(図8参照)

1. 黒髪団地南地区工学部薬品庫新設に伴う立会 調査 (0301)

<調査期間>

2003年4月10日

<調査対象面積>

2 m

<調査員>

小畑弘己·大坪志子.

<調査概要・結果>

工学部の薬品庫新設工事に伴う立会調査である. 予定地の北西に1×2mのトレンチを設定して掘削を行った. 掘削予定の地表下60cmまで掘削したが現代埋土で, 遺物包含層や遺構面には達しなかった.

写真28 作業風景(西より)



2. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴 う試掘調査(0302)

<調査期間>

2003年 4 月10日

<調査対象面積>

9.6m

<調査員>

小畑弘己・大坪志子.

<調査概要・結果>

共同溝設備工事に伴い,工学部9号館南側の東西約60 mの範囲にトレンチ3箇所(東端・中央・西端)を設定して試掘を行った。

中央1トレンチでは旧建物の基礎などが廃棄されていた. 東端の2トレンチでは9909調査地点で確認したものと同じと思われる畑の畝の砂層が, 地表下2.5mで確認され, 3.8mで地山に達した. 西端の3トレンチでは地

表下3.5mまで掘削したが、軟らかい土と砂の互層が続き、包含層・遺構面は検出されなかった。

写真29 トレンチ3掘削状況(北より)



3. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う立会調査(0302)

<調査期間>

2003年7月18日

<調査対象面積>

296 m²

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

試掘調査を行った,工学部9号館南側の東西の共同溝 設備工事の際立会調査を行った。予定範囲の西側から順 次掘削を進めた。しかし、試掘調査で得られた結果と同 様で、旧建物の基礎などの撹乱が多く、またその他の地 点では遺物包含層や明確な畑の畝の続き、遺構は検出さ れなかった。

写真30 作業風景(東より)



4. 黒髪団地南地区総合研究棟共同溝設備工事に伴う立会調査 (ガス管) (0302)

<調査期間>

2003年11月26日

<調査対象面積>

3.6m²

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

黒髪南地区総合研究棟工事に伴い,新設共同溝(0302本調査地点)から工学部資料館側にある既設管へ東西にガス管を配管する工事が行われ,立会調査を行った.一部,障害物撤去のために地表下1.2mまで掘削し,古代〜縄文時代の遺物包含層を確認した.他の工事区間においては包含層には達しなかった.

写真31 掘削状況(西より)



5. 黒髪団地南地区事務局配水管修理工事に伴う立 会調査(0303)

<調査期間>

2003年5月20日

<調查対象面積>

16.8m

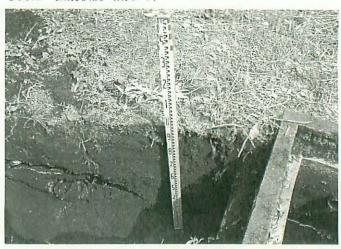
<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

排水管修理のため、新たに幅60cm、長さ21mにわたって掘削が行われた。主な排水管は既存の土管埋設溝によって東半分を地表下1mくらいまで撹乱されていた。地山(従来の遺構検出面)は地表下60cmくらいで検出される。その上部の20~30cmの黒褐色度は周辺地区では遺物包含層に相当するが、今回は遺構・遺物ともに検出していない。

写真32 掘削状況(南より)



6. 黒髪団地南地区理学部 4 号館周辺プレハブ等設置工事に伴う立会調査(0316) 伴う試掘調査

<調査期間>

2004年2月9日(駐車場建設部分) 2月16日(プレハブ設置部分)

<調査対象面積>

50㎡ (駐車場建設部分) 33㎡ (プレハブ設置部分)

<調查員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

駐車場建設部分(2月9日立会)は、地表下5~10cmほどの掘削で、ほぼ芝土を剥がす程度であったため、表土・埋土内に収まり、遺構・遺物ともに検出していない。

プレハブ建設部分(2月16日立会)も,地形が傾斜していたため,高い部分で地表下30cmほどを掘削して地均しを行っているが,この部分も埋土の範囲内に収まり,遺構・遺物ともに検出していない.

写真33 掘削状況 (西より)



Ⅲ一3 本荘北地区

(図2参照)

- 1. 本荘団地北地区中央診療棟(軸)設営工事に伴 う立会調査(0311)
- <調査期間>

2003年12月10日

<調査対象面積>

4 m

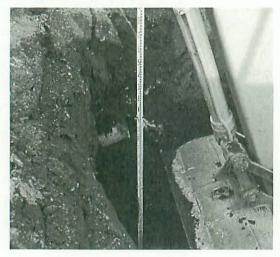
<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

中央診療棟新営に関連する,防火水槽移築工事に伴って立会調査を実施した.予定範囲内の西側には旧建物の基礎が廃棄されており,東側の2×2mの範囲を掘削した.地表下2.3mで地山を検出したが,この部分においても直上まで撹乱であった.遺物は近代の陶磁器片が出土したのみである.

写真34 掘削状況(北より)



2. 本荘団地北地区東側駐車場整備工事に伴う立会 調査(0315)

<調査期間>

2004年1月30日

<調査対象面積>

30.7 m

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

本工事は樹木を伐採して、根切りせず、抜根という手法で工事を行うため、土地の掘削を伴わなかった。よって、土層の観察作業なども発生していない。

- 3. 本荘団地北地区楷樹の木移植に伴う立会調査 (0317)
- <調査期間>

2004年2月23日

<調査対象面積>

16m2

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

中央診療棟建設に伴う樹木移植先の移植用の穴の掘削に伴い立会調査を実施した. 4×4 mの範囲で、地表下約2 mまで掘削を行った. 地表下1.8mで黄褐色の地山が現れたが、この面に遺構は存在しなかった. 地表下1 mほどで旧建物の基礎が現れ、その他の部分においても撹乱が著しかった. 旧地山は削平されている可能性がある. 上部90cm ほどは黄褐色のシルト層と褐色土の混じる層であり、中から土師器片5点ほどが出土した. これはこの地点を埋める際に他の地点を削平した土を搬入したためと思われ、遺物は本来の出土位置を保っていない.

写真35 掘削風景(東より)



写真36 土層堆積状況(南より)



Ⅲ-4 本荘南地区

(図15参照)

1. 本荘団地南地区凍結保存棟新設に伴う配管移設 工事(うち動物慰霊塔建設)に伴う立会調査 (0309)

<調査期間>

2003年10月2日

<調査対象面積>

4.02m

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

動物慰霊碑の建設工事に伴う立会調査を行った.基礎部分の3.6×3.7mの周囲を幅30cm程度人力により、地表下35~40cmまで掘削した.全て埋土で、遺物包含層や遺構面には達しなかった.なお、当日現地の状況により建設場所を北側へ4.5m移動した.このことについては県文化課へ連絡、許可を得て施工した.

写真37 作業風景(北より)



2. 本荘団地南地区発生医学研究センター整備事業 配管工事に伴う立会調査 (0310)

<調査期間>

2003年11月17日~11月28日

<調査対象面積>

557 m²

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

配管工事に伴う掘削であり、配管部分の地表下90cm ほどの掘削である。

医学部の西南部を周回する掘削であるが, 地表下

90cm ほどはいずれも撹乱もしくは表土・埋土であった. 現状が道路部分にあたるため、ほぼ全地域において配水 管やガス管、排水管などの設置に伴う掘削工事によって 撹乱を受けている部分が確認された.

遺構・遺物は検出できなかった.

写真38 作業風景(西より)



写真39 土層堆積状況(東より)



3. 本荘団地南地区発生医学研究センター整備事業 本体工事に伴う試掘調査

<調査期間>

2003年12月9日

<調査対象面積>

26.58m²

<調査員>

実施者: 坂田和弘 (熊本県文化課).

立会者:大坪志子.

<調査概要・結果>

発生医学研究センター本体工事の為の試掘調査が, 熊本県教育庁文化課坂田和弘氏によって実施され, 大坪が

立ち会った.実施時には、予定範囲内において旧建物の解体作業中であったため、北・東・南端にトレンチを設定して掘削を行った.1トレンチでは地表下1.6mほどで古代の遺物包含層、その下15cmで地山を確認した.遺構は検出されなかった.2トレンチでは地表下1.4mで地山を確認した.ここでは地山が溝状になっており、南側で立ち上がりを確認した.溝状遺構の方向は、西北西一東南東である.溝の底では水が作用したような褐色の鉱物の沈着が確認できた.3トレンチでは1.25mで地山を確認した.2・3トレンチで地表下1mほどで検出される灰茶色の層は中世の遺物包含層かと思われる.

写真40 作業風景(東より)

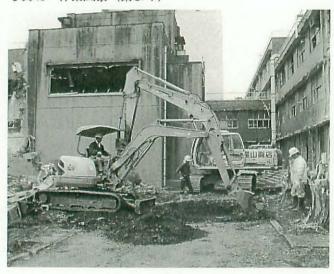
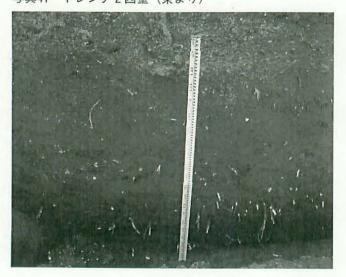


写真41 トレンチ2西壁(東より)



Ⅲ-5 京町地区

(図19参照)

1. 京町地区附属小・中学校フェンス設置工事に伴 う立会調査(0305)

<調査期間>

2003年8月19日

<調査対象面積>

44.3m

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

敷地外周を巡る正面側のフェンス設置部分1箇所および西側の部分2箇所を立会調査した。掘削レベルにおいてはいずれも埋土もしくは撹乱土で、遺構・遺物ともに検出されなかった。

写真42 調査地点近景(東より)



写真43 掘削状況(南より)



図19 京町地区における調査地点配置図 (1/3000)

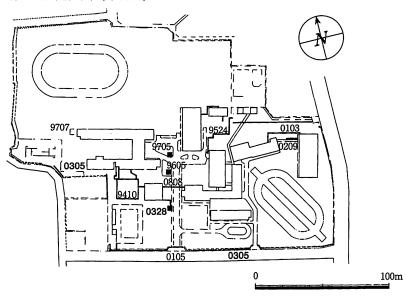
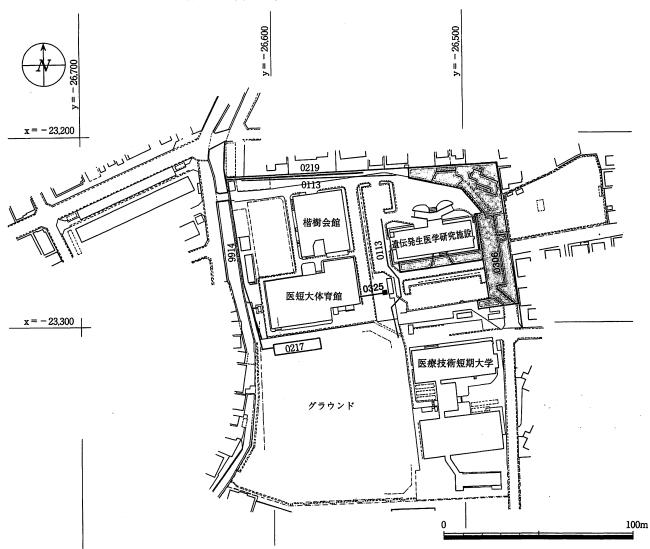


図20 九品寺地区における調査地点配置図(1/2000)



Ⅲ一6 九品寺地区

(図20参照)

1. 九品寺地区医療技術短期大学部北側駐車場環境 整備工事に伴う立会調査 (0306)

<調査期間>

2003年9月4日~9月8日

<調査対象面積>

539.2m

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

発生医学センター南側の低木移植先を 2 箇所, 東側の 駐車場整備部分の樹木移植地点 1 箇所を地表下 1 mほど 掘削して土層の状態および遺構の残り具合を確認した. 発生医学センター南側の樹木移植部分は地表下 1 mほ どまで撹乱であった. 駐車場部分において地表下1.2m で黒色土を確認したが、遺物は包含していなかった.

整備工事において掘削深度が地表下1mを超えるものはなく、土層の堆積状況から残りの部分においても問題はないものと判断した。

遺構・遺物は検出していない.

写真44 駐車場トレンチ3作業風景(南より)



写真45 トレンチ3南壁土層(北より)



Ⅲ一7 薬学部地区

(図21参照)

1. 薬学部地区大江総合研究棟給排水管および電気 工事に伴う立会調査(0307)

<調査期間>

2003年9月5日

2004年1月14日

<調査対象面積>

 7.54m^2

45.5m

<調査員>

小畑弘己.

<調査概要・結果>

試掘坑1においては地表下50cmにおいて茶褐色土が、同90cmにおいて黒色土が認められた.この黒色土は厚さ20cmほどであり、周辺地域の状況から判断して古代以前の遺物包含層であるが、本地点では遺物・遺構ともに検出されなかった.試掘坑2は地表下90cmまで撹乱を受けていた.試掘坑3は建築本体部に隣接し、その土層観察により掘削深度(地表下80cm)まではまったく問題ないと判断した.

写真46 トレンチ1南壁(北より)



写真47 研究棟敷地深掘部(南西より)

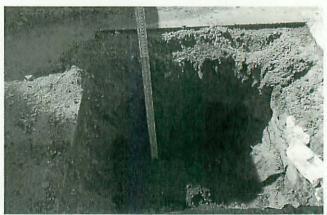
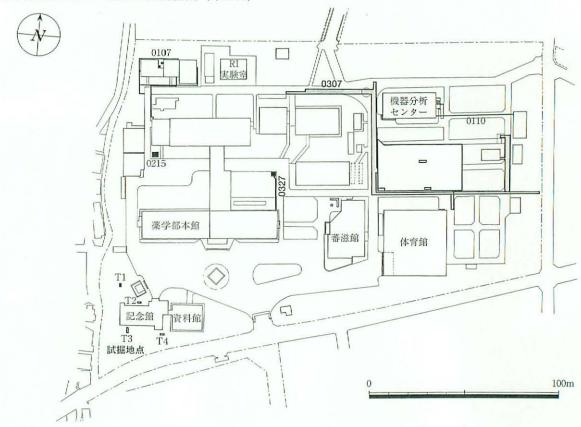


図21 薬学部地区における調査地点配置図 (1/2000)



建物本体部の土層は地表下50cm ほどが埋土で、その下1mあまりが暗茶褐色土であり、その下部の黄褐色土とは不整合面をなす。試掘調査においても遺構・遺物は発見されていない。

2. 薬学部地区薬学部記念館(仮称)建設に伴う試 掘調査

<調査期間>

2003年11月6日

<調査対象面積>

7.4m²

写真48 作業風景(北より)



<調査員>

実施者:坂田和弘(熊本県文化課).

立会者:大坪志子.

<調査概要・結果>

薬学部記念館(仮称)建設工事に伴い,熊本県教育庁文化課坂田和弘氏によって試掘調査が実施され,大坪が立ち会った.建設予定地内にある記念館の北側・南側の東西にそれぞれ1箇所ずつ,合計4箇所にトレンチを設定して掘削を行った.おおよそ,地表下0.8mで古代の遺物包含層,1~1.2mで地山を確認した.遺構は確認されなかった。また,遺物も須恵器片が1点出土したのみ

写真49 トレンチ2掘削状況(西より)



であった.

- 薬学部地区薬草園取設工事に伴う立会調査 (0312)
- <調査期間>

2004年1月13日

<調査対象面積>

11.2m

<調査員>

小畑弘己.

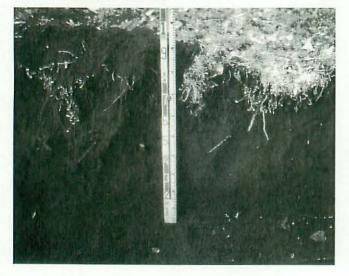
<調査概要・結果>

地表下50cm ほどで茶褐色土,同60cm~80cm が黒褐色土である。その下部はまた茶褐色土層と黒褐色土が10cm ほどずつ堆積している。上部の黒褐色土から土師器皿の小片が出土した。本層が遺物包含層の可能性が高いが、遺物量は3点ほどで、きわめて少なかった。遺構は検出していない。

写真50 作業風景(北より)



写真51 掘削状況 (東より)



Ⅲ一8 宇留毛地区

- 1. 宇留毛地区小碩宿舎 1 号棟揚水管漏水修理工事 に伴う立会調査 (0308)
- <調査期間>

2003年9月29日

<調査対象面積>

 $3.64 \, \text{m}^{2}$

<調査員>

大坪志子.

<調査概要・結果>

宇留毛地区小碩宿舎1号棟の揚水管漏水修理工事に伴い、立会調査を行った. 既設管の一部を掘り起こし、別ルートでポンプ室に繋げる工事であった. 幅0.4m, 深さ約0.6mで新設ルートの掘削を行ったが、この深さまではすべて埋土で遺物包含層や遺構面には達しなかった. 写真52 作業風景 (北西より)



写真53 掘削状況(南西より)



跋文

熊本大学埋蔵文化財調査室の今年度の調査件数は、表2にみられるように、年間39件に達している。そのうち発掘調査は5件、試掘調査は4件で、残りはすべて立会調査であった。調査の実に8割近くが立会で、このことは文化財包蔵地での工事に際しては、必ず届出を行わなければならないという法律の趣旨からは好ましいことではあるが、立会調査の2/3が今年に入ってからのものであり、中には、はたして緊急性があるのかと疑念を抱くような工事もなくはなかった。また、法的に疑問が残る扱いも、この時期に集中していることは、全学的には埋蔵文化財に対する認識が未だ不十分であることを表しているといえよう。

熊本大学は来年度から独立行政法人化することになり、従来、埋蔵文化財保護法の第57条第3項の適用を受けていたが、今後は第57条の2項に従って、工事届出から60日後にしか、具体的工事に入れなくなることとなる。事前の工事計画作成においては、十分な時間的余裕をもってあたっていただきたいものである。

熊本大学埋蔵文化財調査室が創設されたのは、1993年5月であり、今年で12年目を迎える。この間行われた調査により、黒髪地区は奈良・平安時代の蚕飼駅に関連する遺構が集中することがわかり始めてきたし、本庄地区は古墳時代以後の大集落址であることがおぼろげながら推察されるに至った。ところが、そうした調査に伴って膨大な資料が蓄積され、埋蔵文化財調査室は満杯となり、十分に整理作業ができない状態に陥っている。これ以上調査が続くと、大学としては埋蔵文化財に対して十分な対応ができないこととなるため、早急に発掘遺物の保管体制の整備を御願いしたい。

埋蔵文化財包蔵地の工事において、「記録保存」という形で、発掘をおこなって建物を建てることで、熊本大学はこれまで済ませてきた。しかし、これに伴って、毎年出版するその年度の調査概要だけでなく、正式な報告書を作成して、その成果を報告することが義務付けられている。ところが、熊本大学では2002年度に1994・1995年度の報告書を出版したが、それ以外は手付かずのままになっている。この状態が続くと、記録保存の意味自体が問われることになり、将来重大な禍根を残すことが懸念される。当局の真摯な対応を望むものである。

熊本大学埋蔵文化財室長文学部教授 甲 元 眞 之

Summary

In 1985, Kumamoto University planed reconstruction of campus. But it was known that some of campus is designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Archaeological Operation Office in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt since then. We have two main campus sites at another areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of science and faculty of Engineering (south area), faculty of Education, faculty of Laws, and faculty of Letters (north area), and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt.Tatuta (above 151.6m) on a low terrace (above sea level $18 \sim 25$ m) formed by the Shirakawa River. The site are regarded as an ancient station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of medicine, college of Medical Science (south area), and Kumamoto University hospital (north area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace (above sea level 12 ~ 13m) formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimati site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site.

The number of investigations in the current year is the following: 5excavations, 30presence investigations and 4trial excavation. The main results are the following.

At 0304 excavation spot in the Honjo site, we excavated the site before the construction of independent electric power plant and C.C.BOX. The excavated area is about 333 square meters. The site was destroyed by modern construction seriously. But as the result of excavation, we found a ditch of early modern period, a pit dwelling and some post holes of ancient times, a ditch and some post holes of Kohun period, a ditch of Yayoi period. The ditch of Yayoi period is the same one of discovered at 0104 excavation spot. We got potteries of these times, and some obsidian as tip or flak of Jomon period. The main times of the site that we have excavated around this excavation point is Kohun period and ancient times, but we must have a care of relic and structural remain of Jomon and Yayoi period from now on.

At 0302 excavation spot in the Kurokami site, we excavated the site before the construction of C.C.Box. We have two areas, one is north point of 0204excatation spot, the other one is south point of 0204excatation spot. The north excavated area is about 168square meters, south area is 253quare meters. At north area, we found some ditches of ancient times and an occupational layer of the Earliest stage of Jomon period. We got a large number of Jomon potteries tip of obsidians, and some stone implements like arrowhead.

At south area, the site was destroyed by construction since early modern period, so we could not find structural remain that is relative to Kokai posting-station and associated facilities of ancient period. We found 3ditches and many pits, and we got some peaces of Sue ware, Haji ware, Yayoi pottery, Jomon pottery, and got an iron arrowhead.

At 0314 excavation spot in the Honjo site, we excavated the site before pull down two old school buildings bases. We have two areas, north one is 700 square meters, and west one is 300 square meters. At these areas, we found some ditches of Middle Ages, of ancient period and the before time of ancient period. It became known that some ditches were same one that we found in 9511 excavation spot.

The excavation in this point taught us even if under building, we must examine whether there is structural remain or not before remove bases of building.

At five excavations in current year, we got splendid results as above. We got new facts at every excavation, but there are many ambiguous points about a scale and character of the site, too.

So we will do best to make it obvious the whole aspect of these sites from now on, too.

구마모토 대학은 건물이 낡아서 1985 년 부터 재건축 계획을 세우고 있었으나, 대학이 있는 구내지역이 유적 포함지로 지정되어 있다는 사실을 알게 되었다. 그 때문에 재건설을 하기 전에 매장문화재의 발굴조사를 위해 급거 조사위원회와 조사실을 편성해, 1994년 부터 조사를 해 왔다.

구내지역의 유적은 크게 두 지구로 나누어진다. 하나는 공학부・ 이학부(남지구), 교육학부 • 법학부 • 문학부(북지구)가 자리한 쿠로카미 (黒髮) 캠퍼스로, 쿠로카미마치(黒髮町) 유적의 일부에 해당한다. 이 유적은 타쓰타산(立田山)(표고 151.6m) 기슭의 저위하안단구(표고 18~25m) 상에 위치하며, 고대 고카이(蚕養)의 역전으로 추정되고 있다. 또 하나는 의학부 · 의료단기대학(남지구), 대학부속병원(북지구)이 자리한 혼조(本荘) 캠퍼스이다. 이 지구는 혼조(本庄) 유적의 일부이며, 쿠로카미마치유적과 마차가지로 시라카와(白川) 강의 저위안단구(표고 12~13m) 상에 위치한다. 혼조유적은 쿠로카미마치유적으로부터 직선거리로 2km 쯤 떨어져 유적과 곳에 근접한 오오에 (大江) 유적과 신야시키(新屋敷) 유적 등 큰 고대 취락 유적이 있다.

2003 년도에 실시한 조사 건수는, 발굴 조사 5 건, 입회조사 30 건, 시굴 조사 4건이었다. 주된 조사의 결과는 다음과 같다.

혼조(本庄)유적 0304 지점은, 발전소 및 공동 도랑(共同溝)을 건설하기 전에 발굴 조사를 행했다. 조사 면적은 333 평방미터였다. 유구는 현대의 건축물에 의해 상당히 파괴되어 있었지만, 조사의 결과, 근대 도랑 1 조, 고대 수혈주거지 1 기와 기둥, 그리고 야요이(彌生)시대의 도랑 1 조가 검출되었다. 이 야요이(彌生)시대의 도랑은 0104 지점에서 검출된 것과 연결되는 것으로 예상된다. 유물로는, 각 시대의 토기, 죠몬(繩文)시대의 흑요석제 박편 및 부스러기들이 있다. 이 조사 지점의 주변은, 지금까지 주로 고분 고대의 유적이 이제부터는 시대와 조사되어 왔지만, 야요이(彌生)시대나 죠몬(繩文)시대의 유구나 유물에도 주의하지 않으면 안된다.

쿠로카미마치(黒髮町)유적 0302 지점은, 공동 도랑건설에 앞서 발굴 조사를 실시했다. 조사 구는 2 군데로 나뉘어진다. 하나는 0204 조사 지점의 북쪽에 위치하고, 또 하나는 0204 지점의 남측에 위치한다. 북쪽조사구에서 발굴된 면적은 168 평방미터이며, 남측조사구는 253 평방미터이다. 북쪽조사구에서는, 고대의 도랑 몇 조와 죠몬(繩文)시대 조기의 유물포함층이 검출되었다. 여기에서는, 죠몬(繩文)토기와 흑요석의 박편들이 다량으로 출토되었고, 그 중에는 화살촉 등 각종 석기류도 포함되어 있었다. 남측조사구는, 근대에 땅이 깎여나감으로 인해 옛 지표면 또한 파괴되어, 예상이 빗나가서 고대의 고카이(蚕養)역이나 그것에 관련된 시설 등의 유구은 전혀 검출되지 않았다. 근대의 3 조의 도랑 및 고대의 다수의 기둥구멍이 검출되었고, 스에키(須恵器)나 하지키(土師器), 야요이(硼牛)토기. 죠몬(繩文)토기, 철제화살촉 등이 출토되었다.

혼조(本庄)유적 0314 조사 지점은, 기존 교사의 기초부분을 철거하기 전에 발굴이 실시되었다. 북쪽부분의 조사 구는 700 평방미터의 면적이, 서측의 조사 구는 300 평방미터의 면적이 조사되었다. 그 결과, 중세 및 고대, 고분 시대의 도랑들이 몇 조 검출되었다. 그 일부는 이전에 조사된 9511 조사 지점에 연결되는 것이라고 생각된다. 이 조사에 의해, 건물의 기초부분이나 지하실부분에 있어서도 조건이 좋으면, 유구가 잔존할 가능성이 큰 것으로 밝혀졌다. 그러므로, 앞으로는 건물철거 이전에 매장문화재의 유무를 확인하는 작업을 행할 필요가 있다고 생각된다.

付篇1 2002年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1. 熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則(H14.1.24~)

(設置)

第1条 熊本大学(熊本大学医療技術短期大学部を含む。以下「本学」という。)に、熊本大学埋蔵文化財調査委員会 (以下「委員会」という。)を置く。

(任 務)

第2条 委員会は、本学の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。

(組 織)

- 第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 各学部、大学院自然科学研究科、医学部附属病院及び医療技術短期大学部から選出された教授又は助教授 各1人
 - (2) 事務局長
 - (3) 埋蔵文化財調査室長
 - (4) その他委員会が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第1号及び第4号の委員は、学長が委嘱する。
- 3 第1項第1号及び第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 第1項第1号及び第4号の委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。
- 2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

- 第5条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決をすることができない。
- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第6条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ意見を聴くことができる。

(調査室)

- 第7条 委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する業務を行うため、埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。
- 2 調査室の業務、組織その他必要な事項については、別に定める。

(事 務)

第8条 委員会の事務は、施設部企画課において処理する。

(雑則)

第9条 この規定が定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

- 1 この規則は、平成14年1月24日から施行する。
- 2 この規則施行の際、現に改正前の規則第3条第1項第1号から第4号まで及び第7号の規定により選出されている 委員は、改正後の規則第3条第1項第1号の規定により選出されたものとみなす。
- 3 この規則施行後、最初に選出される第3条第1項第4号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成15 年3月31日までとする。

2. 熊本大学埋蔵文化財調査室要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則第8条第2項の規定に基づき、熊本大学埋蔵文化財調査室 (以下「調査室」という。)の業務、組織その他必要な事項について定める。

(業務)

- 第2条 調査室は、熊本大学(熊本大学医療技術短期大学部を含む。以下「本学」という。)の施設整備に関する次の 業務を行う。
 - (1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
 - (2) 出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存に関すること。
 - (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。
 - (4) その他必要な事項

(組織)

第3条 調査室に室長を置く。

- 2 室長は、調査室に関する業務を掌理する。
- 3 調査室に調査員その他必要な職員を置くことができる。
- 4 調査員は発掘調査に関する業務を行う。

(室長等の任命)

第4条 室長及び調査員は、本学の教官のうちから学長が任命する。

2 学長は、必要がある場合は、学外の者を調査員に委嘱することができる。

(事 務)

第5条 調査室の事務は、関係学部等の協力を得て、施設部企画課において処理する。

(雑 目1)

第6条 この要項に定めるもののほか、調査室の運営に必要な事項は、熊本大学埋蔵文化財調査委員会が定める。

附則

この要項は、平成12年4月1日から実施する。

3. 2003年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1 埋蔵文化財調査室組織(2003年4月1日現在)

 〈室 長〉
 (併・文学部教授)
 甲元 眞之

 〈調査員〉
 (併・文学部助教授)
 小畑 弘己

 (併・文学部助手)
 大坪 志子

 〈事務補佐員〉
 坂元 紀乃

 〈室内作業員〉(2003年11月~2004年2月)
 溜渕 俊子

 林田 恵子
 早田咲百合

2 埋蔵文化財調査委員会

 委員長
 北野
 隆 (熊本大学工学部教授)
 任期 (2003. 4. 1~2005. 3. 31)

 委員
 杉井
 健 (文学部助教授)
 (2003. 4. 1~2005. 3. 31)

 春田
 直紀 (教育学部助教授)
 (2003. 4. 1~2005. 3. 31)

 大久保憲章 (法学部教授)
 (2003. 4. 1~2005. 3. 31)

吉田	昌文	(理学部助教授)	(2003.	4.	1~2005.	3.	31)
小川	尚	(医学部教授)	(2003.	4.	1~2005.	3.	31)
今村	順茂	(薬学部助教授)	(2003.	4.	1~2005.	3.	31)
土亀	直俊	(附属病院助教授)	(2003.	4.	1~2005.	3.	31)
蔦川	忠久	(医技短大部教授)	(2003.	4.	1~2005.	3.	31)
伊藤	重剛	(大学院自然科学研究科助教授)	(2003.	4.	1~2005.	3.	31)
長木	正治	(事務局長)	(2001.	7.	1~)		
甲元	眞之	(埋蔵文化財調査室長)	(1994.	5.	16~)		

審議事項

2003年 4 月21日

委員長選出

第15回埋蔵文化財調査委員会議事録確認

2003年度共通経費要求について

2003年度埋蔵文化財発掘調査予定(案)について

2003年度教官流用と平成16年度教官流用の申請について

2002年度埋蔵文化財発掘調査結果について

その他

2003年10月15日

第16回埋蔵文化財調査委員会議事録確認

2003年度埋蔵文化財発掘調査予定(案)について 法人化後の埋蔵文化財調査委員会規則の改正について

その他

付篇2 埋蔵文化財調查室2003年度調查・研究活動記録

1. 個人活動

【室長】

甲元眞之

- ・平成 15 ~ 18 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A) (1) 海外学術調査 研究代表者「極東地域における前期完新世の環境変化と生業システムの適応に関する研究」
- ・平成 15 ~ 18 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A) (1) 海外学術調査 研究代表者「中国・中原地域 出土古人骨の人類学的研究」分担研究者
- ・平成 15 年度 学内拠点形成研究 B「世界的文化資源集積と文化資源科学の構築」分担研究者
- ・平成 13~15年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B) (2) 「先史・古代九州出土植物遺存体の実証的研究」 研究代表者
- ・平成 13 ~ 16 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A) (2) 「中国・琉球列島間のタカラガイの需要・供給 に関する実証的研究」分担研究者
- ・平成 14 ~ 17 年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「琉球列島における農耕社会成立過程の解明に向けた実証的研究」分担研究者
- ・平成 14~15年度 社会文化科学研究科プロジェクト研究 代表「九州先史時代の年代決定研究」

【調査員】

小畑弘己

- ・平成15年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「極東および環日本海地域における更新世末〜完新世の 狩猟道具の変遷研究」研究代表者
- ・平成15年度 平和中島財団 アジア重点学術研究助成「中部更新世〜完新世初期の日韓石器文化の基礎的研究」研究

代表者

- ・平成15年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「先史・古代九州出土植物遺存体の実証的研究」分担研究者
- ・平成15年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)海外学術調査「極東地域における前期完新世の環境変化 と生業システムの適応に関する研究」研究分担者
- ・平成15年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A)「琉球列島における農耕社会成立課程に向けた実証的研 究」研究分担者
- ・平成15年度 文部科学省特定領域研究「中世考古学の総合的研究-学融合を目指した新領域創生」研究分担者 上記研究にかかわる調査・研究の実施

石器原産地研究会第3回研究集会(2003年7月5·6日大分県姫島村)開催

大坪志子

- ·大矢野町史編纂事業:大矢野町小波戸遺跡発掘調査
- ・平成13~15年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「先史・古代九州出土植物遺存の実証的研究」分担 研究者

上記に係わる研究・調査・報告書作成

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽう 10								
書 名	熊本大学埋蔵文化財調査室年報 10								
副書名									
巻次									
シリーズ名	熊本大学埋蔵文件	熊本大学埋蔵文化財調査室年報							
シリーズ号	10								
編著者名	甲元眞之・小畑の	以己・大坪志子・	坂元紀フ	ን					
編集機関	熊本大学埋蔵文化	比財調査室		•					
所 在 地	〒860-8555 熊本リ	県熊本市黒髪 2-39)- 1	TEL.	096-342-3	832 FAX	X. 096-342-3	832	
発行年月日	2004年 3 月31日								
ふりがな	ふりがな コード								
所収遺跡名	所在地	市町村 遺跡	·番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
くろかみ 黒髪町遺跡 (0302地点) ほんじょう 本庄遺跡 (0304地点) ほんじょう 本庄遺跡 (0314地点)	く 能 は な 本本 本本 本本 本本 本本 本本 本本	43 201 43 201		32° 48′ 34″ 32° 47′ 33″ 32° 47′ 25″	130° 43′ 43″ 130° 42′ 54″ 130° 42′ 51″	20030806 ~ 20030912, 20031001 ~ 20031010 20030602 ~ 20030702 20030126, 20030127, 20030305 ~ 20030309	333.5m²	学校開発 の保 学校開発う 学校開発 学校開発 学校開発 学校開発 が開発 が開発 が開発 が開発 が開発 が開発 が開発 が開発 が開発 が	
所収遺跡	遺跡 種 別 主な時代			主な遺構		主な遺物		特記事項	
黒髪町遺跡 (0302地点)	散 布 地	縄文・弥生・古	弥生・古代		溝・土壙・ ピット		縄文土器・縄文石 器・弥生土器・ 古代土器・鉄鏃		
本庄遺跡	集落址	縄文・弥生・古坊 古代・近世			住居址・溝		縄文土器・縄文石 器・須恵器・土師 器・近代陶磁器		
本庄遺跡(0314地点)	集落址	古代	満		溝		古代土器		

熊本大学埋蔵文化財調査室年報10

一2003年度一

平成16年 3 月25日 印刷 平成16年 3 月31日 発行

編集兼発行者 熊本大学埋蔵文化財調査室

熊本市黒髪 2 - 39 - 1

電話 (096) 342-3832

印刷所

シモダ印刷株式会社

Published by **Archaeological Operation Center Kumamoto University** Kumamoto, 2004